
FUT

Fukui University of Technology

DATA

BOOK

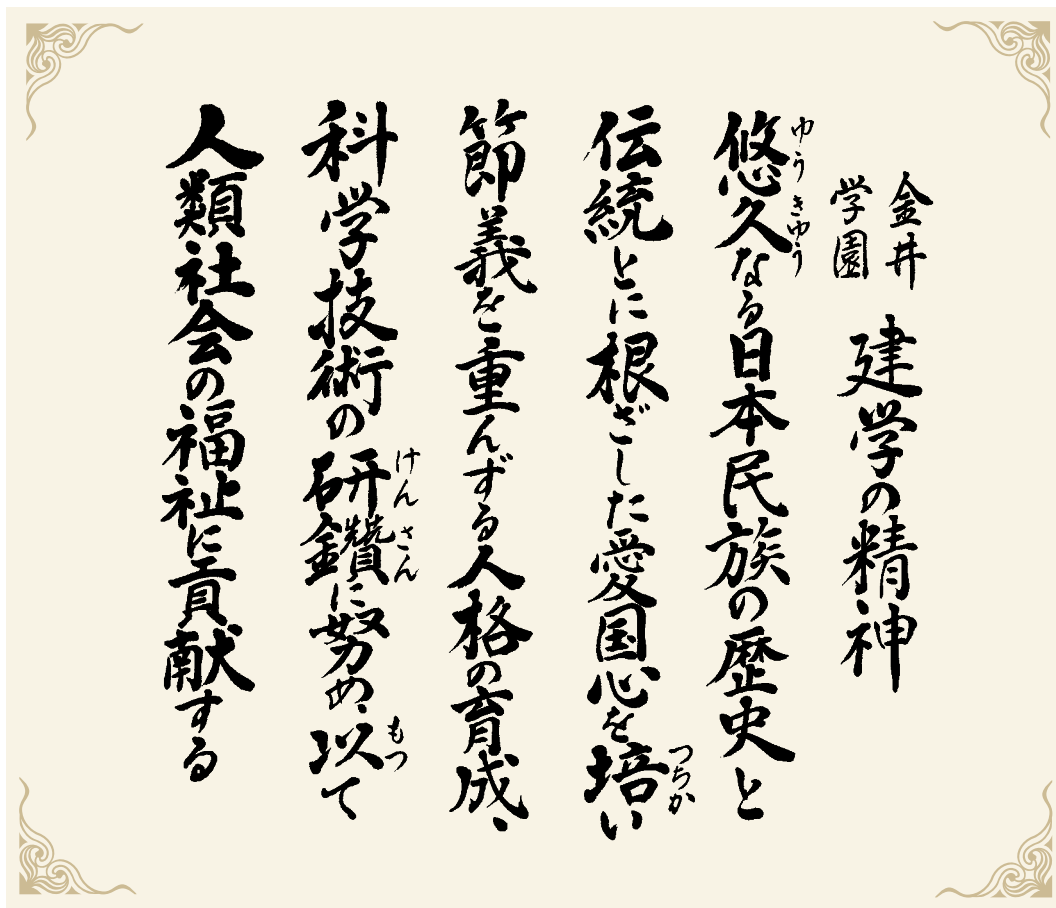
2022

大学要覧

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。



福井工業大学
Fukui University of Technology



本学の建学の精神に謳われている人格の育成は教職員が強く意識すべき
 本学の教育の根幹をなす理念であり、科学技術の研鑽は教職員学生共々
 自らを研鑽し、質の高い工学教育を授受することを意味している。
 建学の精神の要約である本学の基本理念は、次のとおりである。

基本理念

健全な人格を身に付けた実践的な技術者を育成し
 社会に送り出すことを通して社会の発展と繁栄に寄与する

学校法人金井学園のブランドステートメント

ブランドメッセージ



「知」をつなぐ。
 「未来」を創る。

金井学園ブランドプロミス

私たちは、急激な技術革新が進む社会において、新しい価値を創造し、豊かな未来を実現する人材を育成します。地域に愛され、地域に必要とされるとともに、地域を世界とつなぐ「知」の拠点としての「総合学園」をめざします。

福井工業大学ブランドプロミス

- ◎超スマート社会の到来と人生100年時代の中で、たくましく生き抜く自律した実践的な人材を育成します。
- ◎グローバル化の進展や社会状況の変化による多様化する社会に対応し、地域の持続的な発展に貢献できる研究を推進します。
- ◎大学が持つ様々な「知」と「技」を地域に還元し、夢と可能性の拡大に貢献します。

INDEX

建学の精神／基本理念

沿革／名誉総長／歴代学長 2

基本組織／主要役職 3

主要な取組成果(2021～2022) 4

01 使命・目的/教育方針/教育目標/ 人材の養成及び教育研究上の目的 11

- 01-1 使命・目的
- 01-2 教育方針
- 01-3 教育目標
- 01-4 人材の養成及び教育研究上の目的
- 01-5 3つのポリシー

02 学修の成果・卒業認定 23

- 02-1 評価方法
- 02-2 卒業・修了に必要な単位数・取得可能な学位

03 教職員情報 25

- 03-1 教員数
- 03-2 職員数

04 入学者・在学者・卒業者の状況 27

- 04-1 入学者
- 04-2 収容定員・在学者数・除退者数
- 04-3 卒業
- 04-4 進学及び就職

05 研究 31

- 05-1 外部資金・受託研究費
- 05-2 知的財産
- 05-3 地域連携研究推進センター(研究部門)
- 05-4 AI&IoTセンター
- 05-5 まちづくりデザインセンター
- 05-6 ウェルネス&スポーツサイエンスセンター
- 05-7 FUT福井城郭研究所

06 社会貢献 34

- 06-1 福井工業大学未来塾
- 06-2 学科主催講座、大学連携センター(Fスクエア)開講科目
- 06-3 FUT科学実験キャラバン、出前講義・出前実験 等
- 06-4 ロボキャンブ
- 06-5 自治体との連携
- 06-6 他機関との連携協定

07 国際交流 37

08 入学金・授業料・その他費用 39

- 08-1 入学金・授業料・その他費用
- 08-2 主な奨学金制度
- 08-3 学生保険
- 08-4 寮・下宿

09 学生支援・施設紹介 42

- 09-1 図書館
- 09-2 クラブ活動支援センター
- 09-3 情報メディアセンター
- 09-4 キャリアセンター
- 09-5 インターナショナルセンター
- 09-6 テクニカルサポートセンター
- 09-7 学習支援室
- 09-8 教職支援室
- 09-9 SPEC
- 09-10 学生生活支援室

10 決算の概要 48

11 教育研究環境 49

- 11-1 キャンパス・学内施設
- 11-2 所在地及び土地・建物面積
- 11-3 耐震化率

ロゴマークについて



学校法人金井学園は、創立60周年を機に学園をはじめ福井工業大学、福井工業大学附属福井高等学校、福井工業大学附属福井中学校の「絆」を大切に、一体感ある統一マークを作成しました。

本学園は、地元福井から日本へ、そして世界への貢献を使命とし教育理念に掲げていることから、新ロゴマークは、福井(FUKUI)のFをモチーフに、また生徒や学生の成長と未来への発展を願いデザインしました。

シンプルでも明るい印象のロゴマークのデザインは、福井工業大学デザイン学科の近藤晶講師によるものです。



SDGsにつながる取組み

本学では、これまで行ってきた教育・研究・社会貢献活動の中でSDGsにつながる取組みを洗い出し、より発展させた活動を目指します。さらに、地域の様々な団体の皆様や行政と連携し、持続可能な地域社会づくりを進めます。

沿革

昭和24(1949)年 4月	夜間の北陸電気学校を創設
昭和40(1965)年 4月	福井工業大学開学（電気工学科、機械工学科）
昭和41(1966)年 4月	建設工学科設置
昭和42(1967)年 4月	建設工学科専攻分け（建築・土木専攻）
昭和47(1972)年 4月	電気工学科専攻分け（電気・電子専攻）
昭和48(1973)年 3月	電子計算機室開設
4月	応用物理学科設置（環境安全・原子力専攻）
昭和50(1975)年10月	カナイ産業工学研究所創設
昭和53(1978)年 4月	カナイ産業工学研究所を福井工業大学産業工学研究所に改称
昭和54(1979)年 4月	応用物理学科を環境安全工学科に改称
昭和57(1982)年 4月	電気工学科専攻名変更（電気工学・電子工学専攻） 建設工学科専攻名変更（建築学・土木工学専攻）
昭和58(1983)年 4月	機械工学科専攻分け（機械工学・電子機械専攻）
昭和60(1985)年 4月	大学院工学研究科修士課程開設（機械工学・建設工学・環境安全工学専攻） 環境安全工学科専攻変更（環境工学・安全工学専攻）
昭和61(1986)年 4月	大学院工学研究科修士課程に電気工学専攻設置
昭和62(1987)年 4月	経営工学科設置
昭和63(1988)年 4月	環境安全工学科を応用理化学科に改称、同時に専攻廃止
5月	金井学園電子計算機センター開設
平成元(1989)年 4月	大学院工学研究科の環境安全工学専攻を応用理化学専攻に改称
平成2(1990)年 4月	大学院工学研究科博士課程開設（電気工学・応用理化学専攻）
平成9(1997)年 4月	福井工業大学技術システム研究館開設
平成10(1998)年 4月	応用理化学科専攻分け（応用科学・介護福祉工学専攻）
平成11(1999)年 4月	経営工学科専攻分け（マルチメディア工学・経営デザイン工学専攻）
平成12(2000)年 4月	機械工学科専攻廃止
平成13(2001)年 4月	宇宙通信工学科設置 電気工学科を電気電子工学科に改称し、専攻を廃止 建設工学科土木工学専攻を地球環境工学専攻に改称
平成14(2002)年 4月	応用理化学科応用科学専攻を環境・生命未来工学専攻に改称 福井工業大学産業工学研究所を産学共同研究センターに改組
平成15(2003)年 4月	応用理化学科を環境・生命未来工学科に改称し、専攻を廃止 SSL(Student Space Laboratory) 開設
平成16(2004)年 4月	経営工学科を経営情報学科に改称し、経営デザイン工学専攻を経営情報システム工学専攻に改称
10月	学生生活センター開設
平成17(2005)年 4月	原子力技術応用工学科設置
平成18(2006)年 4月	地球環境工学専攻を土木環境工学専攻に改称 学習支援センター開設
平成20(2008)年 4月	経営情報学科専攻廃止
平成21(2009)年 4月	デザイン学科設置 建築学専攻を建築学科に改組 土木環境工学専攻を土木環境工学科に改組 電気電子工学科を電気電子情報工学科に改称 環境・生命未来工学科を環境生命化学科に改称 宇宙通信工学科を宇宙情報科学科に改称
平成22(2010)年 4月	宇宙情報科学科学生募集停止
9月	福井工業大学カールマイヤーグラウンド落成
平成23(2011)年 4月	産業ビジネス学科設置 キャリアセンター開設
5月	図書館付属ラーニングコモンズ開設
平成24(2012)年 4月	建築生活環境学科設置、建築学科、土木環境工学科学生募集停止 大学院工学研究科応用理工学専攻（博士前期課程、博士後期課程）、社会システム学専攻（博士前期課程、博士後期課程）設置 大学院工学研究科電気工学専攻（修士課程、博士後期課程）、応用理化学専攻（修士課程、博士後期課程） 機械工学専攻（修士課程）、建設工学専攻（修士課程） 情報学専攻（修士課程）学生募集停止
10月	インターナショナルセンター開設
平成25(2013)年 5月	FUT福井城郭研究所開設
平成26(2014)年 4月	クラブ活動支援センター開設 電子計算機センターを情報システムセンターに改称

平成27(2015)年 4月	福井工業大学開学50周年 学部学科再編（3学部8学科） 環境情報学部設置 環境情報学部 環境・食品科学科設置 環境情報学部 経営情報学科設置 環境情報学部 デザイン学科設置 スポーツ健康科学部設置 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科設置 工学部 電気電子情報工学科を電気電子工学科に改称 工学部 建築生活環境学科を建築土木工学科に改称 工学部 デザイン学科、経営情報学科、産業ビジネス学科、環境生命化学科学生募集停止 産学共同研究センターを地域連携研究推進センターに改称
7月	あわらキャンパス体育館竣工
平成29(2017)年 4月	入学センター開設
9月	学園体育館竣工
平成30(2018)年 4月	情報システムセンターを情報メディアセンターに改称
9月	武徳殿（武道館）竣工
平成31(2019)年 4月	AI & IoTセンター開設
令和2(2020)年 4月	環境情報学部 環境・食品科学科を環境食品応用化学科に改称
令和4(2022)年 4月	まちづくりデザインセンター開設 ウェルネス&スポーツサイエンスセンター開設

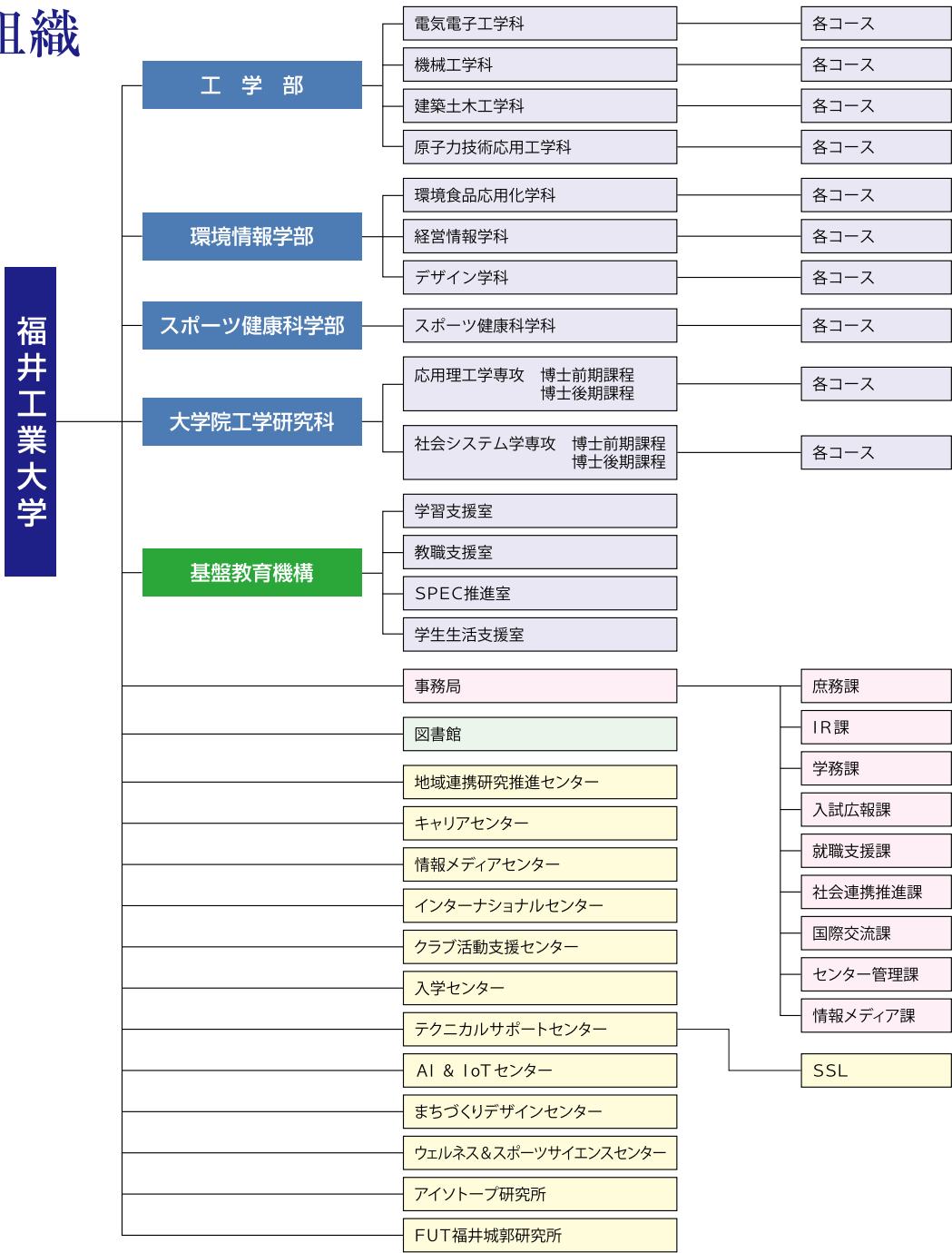
名誉総長

氏名	
初代	熊谷太三郎
2代	山崎正昭

歴代学長

	氏名 / 期間	備考
初代	熊谷太三郎 昭和40年4月1日～昭和45年10月9日	
2代	松村竜雄 昭和45年10月10日～昭和45年12月22日	
	熊谷太三郎 昭和45年12月23日～昭和46年1月18日	学長代行 (名誉総長)
3代	高敏郎 昭和46年1月19日～昭和51年3月31日	
4代	疋田強 昭和51年4月2日～昭和62年3月31日	
5代	増田閃一 昭和62年4月1日～平成5年3月31日	
6代	山本勇麓 平成5年4月1日～平成8年3月31日	
7代	北條卓 平成8年4月1日～平成11年3月31日	
8代	三宅正宣 平成11年4月1日～平成19年3月31日	
9代	城野政弘 平成19年4月1日～平成25年3月31日	
10代	森島洋太郎 平成25年4月1日～平成30年3月31日	
11代	掛下知行 平成30年4月1日～	

基本組織



主要役職

福井工業大学	学 長	掛下 知行	ウェルネス&スポーツサイエンスセンター長	坂崎 貴彦	福井工業大学大学院	工学研究科委員会委員長	掛下 知行
	副学長	池田 岳史	ウェルネス&スポーツサイエンス副センター長	吉田 純一		" 副委員長	池田 岳史
	学長補佐	蔵田 浩之	アイソトープ研究所長	掛下 知行		応用理工学専攻主任	西嶋 茂宏
	学長補佐	三寺 潤	FUT福井城郭研究所長	掛下 知行		電気電子情報工学コース主任	青山 隆司
	学務部長	田中 智一	FUT福井城郭研究所顧問	吉田 純一		宇宙情報科学コース主任	青山 隆司
	図書館長	木村 恒久	工学部長	西嶋 茂宏		機械工学コース主任	西岡 岳
	地域連携研究推進センター長	川島 洋一	電気電子工学科主任	青山 隆司		環境生命化学コース主任	矢部希見子
	キャリアセンター長	島田 茂	機械工学科主任	西岡 岳		原子力技術応用工学コース主任	西嶋 茂宏
	情報メディアセンター長	北上 眞二	建築土木工学科主任	宮本 裕司		社会システム学専攻主任	宮本 裕司
	情報メディア副センター長	大下 福仁	原子力技術応用工学科主任	西嶋 茂宏		土木工学コース主任	谷脇 一弘
	インターナショナルセンター長	ブラッドフォード リー	環境情報学部長	矢部希見子		建築学コース主任	仲地 唯治
	クラブ活動支援センター長	杉浦 宏季	環境食品応用化学科主任	矢部希見子		デザイン学コース主任	川島 洋一
	入学センター長	池田 岳史	経営情報学科主任	馬場口 登		経営情報学コース主任	馬場口 登
	AI&IoTセンター長	芥子 育雄	デザイン学科主任	川島 洋一			
AI&IoT副センター長	木森 義隆	スポーツ健康科学部長	戎 利光				
まちづくりデザインセンター長	三寺 潤	スポーツ健康科学科主任	戎 利光				
まちづくりデザイン副センター長	吉村 朋矩	基盤教育機構長	蔵田 浩之				
まちづくりデザイン副センター長	村井 陽平						

主要な取組成果

まちづくりデザインセンターを設立しました

少子高齢化や人口減少など、社会環境の著しい変化を見据え、持続可能なまちづくりや伝統産業をはじめとした地場産業に貢献する拠点、まちの未来構想にこたえることを目的として、令和4年4月に設立しました。

センターのミッション

1. 自治体等との連携によるまちづくり・プロジェクトの実践
2. 社会に還元するデザイン教育の実践および人材育成
3. F's Design Studio のデザイン活動

センターのビジョン

「未来につなぐ社会環境をデザインで拓く」をビジョンとして、地域のステークホルダーと新たな関係性を築くとともに、文理交錯による多様な専門領域を連携させることで、新たな視点を通じたアイデア

の創出と、それらを活かした「モノ」、「コト」のデザイン活動と未来の地域を拓く「ヒト」の育成を実践していきます。これらの活動を通じ、より良い社会環境を次代に継承し、イノベーションを起こす地域デザインの先駆的な役割を果たしていきます。

まちづくりデザインセンターは、『まちづくり・デザイン』と『地域課題』×『地域資源・潜在力』を組み合わせること、地域の新たな価値創造に貢献します。



まちづくりデザインセンター並びにウェルネス&スポーツサイエンスセンターの設立会見

ウェルネス&スポーツサイエンスセンターを設立しました

感染予防のための新しい生活様式や超高齢社会といった変わりゆく状況の中、人々の健康増進やスポーツ活動を時代に応じた形で研究・支援することを目的として、令和4年4月に設立しました。

センターのミッション

1. 地域の人々との共同事業の窓口としての役割を果たす。
2. 人々のQOLを高めるための有益な情報の発信拠点となる。
3. 地域の人々との対話を通して、高度な教育研究の成果を社会実装する。
4. 未来をつくる観察眼を持った学生・生徒を養成・育成する。
5. 福井で活躍するアスリートをスポーツ科学的手法により支援する。

センターのビジョン

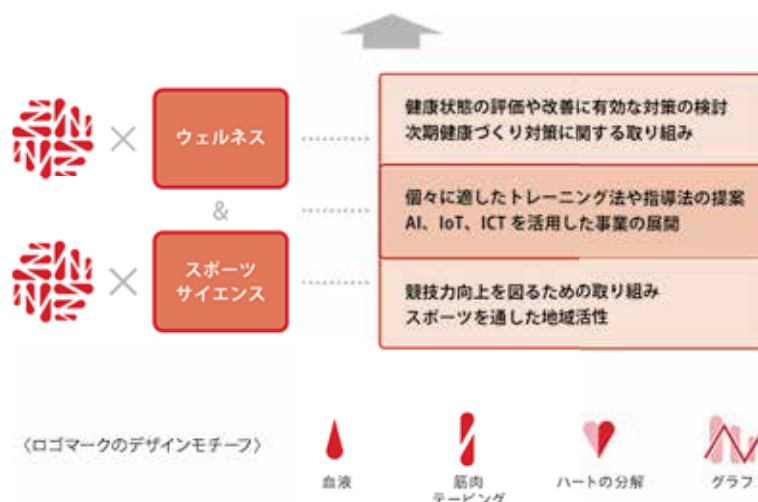
本学が持つリソースを最大限に活用し、心身の健康増進やスポーツ科学の発展に関する取り組みを行い、人々のQOLやスポーツ活動を豊かにするための先駆的役割を果たします。また、取り組みを通して未来を担う人材の養成・育成を行うとともに、得られた有益な情報を積極的に発信し、地域社会の発展に貢献していきます。

ウェルネス&スポーツサイエンスセンターは、『健康づくり』と『スポーツ活動』の研究や支援を通し、地域発展、人材育成に貢献します。



ウェルネス&スポーツサイエンスセンターの設立会見

1. 将来の健康づくり・スポーツ活動を支援
2. 福井の健康・スポーツ界の発展に寄与(FUKUIブランドの向上)
3. 未来を予測し、各種課題に適応できる人材の養成・育成



主要な取組成果

私立大学等改革総合支援事業 全4タイプ中、3タイプに選定

文部科学省は、「私立大学等改革総合支援事業」として「Society5.0」の実現に向けた特色ある教育研究の推進や、地域社会への貢献、イノベーションを推進する研究の社会実装の推進など、特色・強みや役割の明確化・伸長に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を重点的に支援しています。

本学では、令和2年度の選定結果を踏まえ、令和3年度はタイプ1～4のすべてに採択が達成できるよう、学内の教育研究および管理運営の事項について、教職協働で未実施の事業の実現に向け協議を進めてまいりました。

令和3年度選定結果 全4タイプ中、3タイプ(タイプ1・2・3)に選定

- ・4タイプ全て選定された4大学
- ・3タイプ選定された21大学(全私立大学の4%)

4タイプ全てに選定された4大学に次ぐ、3タイプ選定は全国で21大学、東海・北信越では、本学を含む4大学のみで、本学の着実な取り組みが評価されました。

これからも、それぞれの領域において活発な活動を行い、すべてのタイプでの選定を目指してまいります。

タイプ1 「『Society5.0』の実現等に向けた 特色ある教育の展開」 105校程度

- ・『Society5.0』時代に求められる力を養う、文理横断的な教育プログラムの実施、リベラルアーツ教育の推進等、新たな時代を生きる学生に対する教育機能の強化を促進
- ・入学者選抜体制の充実強化、高等学校教育と大学教育の連携強化等、高大接続改革への取組を支援

タイプ3 「地域社会への貢献」 170校程度(20～40グループ含む)

- ・地域と連携した教育課程の編成や地域の課題解決に向けた研究の推進など、地域の経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する取組を支援
- ・大学間、自治体・産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を通じた大学改革の推進を支援(20～40グループ)

タイプ2 「特色ある高度な研究の展開」 40校程度

- ・社会的要請の高い課題の解決に向けた研究やイノベーション創出等に寄与する研究や他大学等と連携した研究など、高度な研究を基軸とした特色化・機能強化を促進

タイプ4 「社会実装の推進」 80校程度

- ・産業連携本部の強化や企業との共同研究・受託研究、知的財産・技術の実用化・事業化、産業界と連携した社会実装の推進に向けた取組を支援

地域における新たな教育研究活動の開始 ～池田町との相互連携協定締結～

令和3年11月11日に池田町との相互連携協定を締結しました。相互の発展を目的として、文化、教育、学術、産業、環境など幅広い分野における相互協力を推進します。池田町の方々と本学の学生・教職員との交流を通じた、地域における新たな教育研究活動を展開していきます。

連携項目

1. 地域課題を解決できる人材の育成
2. 地域資源を活かしたまちづくりの推進
3. 地域産業の活性化の推進
4. 地域における大学生との連携



相互連携協定調印式

また、池田町（池田町教育委員会）との最初のイベントとして、令和3年12月4日、能楽の里文化交流会館にて、「FUTプラス！クリスマスコンサート in 池田」を開催しました。コンサートでは、地元のなかよしこども園、しゃくなげコーラスと本学吹奏楽部のコラボによる演奏を行い、池田町の方々に鑑賞いただきました。



FUTプラス！クリスマスコンサート in 池田

施設をリニューアルしました

令和3年7月に2号館2-802教室のリニューアルが完了しました。

＜座席数＞192席（内2席は車いす仕様）

＜設備＞LED照明設備、プロジェクター3台、カメラ4台、モニター4台、ホワイトボード（全長25m）、エアクリーナー2台、ステージ(55㎡)



令和4年9月にカール・マイヤーグラウンドに室内練習場および投球練習場が完成します。



日本プロテオーム学会 2021年度 学会賞 受賞 (環境情報学部 環境食品応用化学科 小松節子教授)

「農学プロテオミクスの展開と環境ストレス耐性作物作出への応用」

今世紀における地球温暖化や人口増加は、国際的に食糧危機をもたらす深刻な問題です。特に、温室効果ガスの排出による異常気象は、降水量や降雨パターンを大きく変動させ、干ばつや冠水をもたらし、作物の収量低下を招いています。つまり、環境ストレス耐性作物の作出を目指した耐性機構の解明は、重要な課題です。生命現象をシステムとして理解するためには、複雑なタンパク質ネットワークを正確に解析することが必要です。しかし、ゲノム上遺伝子重複が多い作物においては、環境ストレス耐性機構を遺伝子レベルから明らかにすることは、容易ではありません。そこで、生体内で機能しているタンパク質群を包括的に解析するプロテオミクス解析を、農学分野へ展開することに着目しました。

ストレス耐性作物の作出を目的として、各種環境ストレスや薬物処理下で変動するタンパク質群を解析し、データベース化しました。一方で、作物では困難とされていた細胞内局在性や翻訳後修飾を示すタンパク質群の解析により、ストレス耐性機構を詳細に解明しました。この過程において、プロテオミクス解析の精度を検証することで、技術の高度化を達成しました。そして、作物の量産化に鍵と期待されるタンパク質をコードする遺伝子を利用して、遺伝子組換え技術により、その高発現あるいは抑制イネやダイズを作出し、有用性を検証しました。さらに、プロテオミクス解析で同定された鍵となるタンパク質をマーカーとして、作物品種選抜へ利用し、ストレス耐性に有望な品種の開発に着手しています。

このように、プロテオミクス解析の利用による生命現象の機能解明に留まることなく、農業現場での利用を目指すことにより、環境ストレス耐性作物の作出に挑戦しています。



プロテオミクス解析で解明されたダイズの冠水応答機構

生育初期のダイズは冠水ストレスにより生育が遅延します。その応答機構において、多種類のタンパク質の蓄積が変動します。逆に耐性を示すときには、嫌気代謝系はさらに亢進します。しかし、多くの場合、タンパク質の変動パターンを逆にすることにより、耐性を付与し、湿害を回避できることが明らかになりました。



日本プロテオーム学会2021年度
学会賞を受賞した小松節子教授
(受賞記念講演の内容は、日本
プロテオーム学会誌(Proteome
Letters)に総説として掲載されてい
ます。)

学生の輝かしいクラブ活動成果

ゴルフ部 全国大学ゴルフ対抗戦 8位入賞!

ゴルフ部が令和3年6月24日(木)～6月25日(金)に石川県片山津GCで開催された第58回全国大学ゴルフ対抗戦において、8位入賞という過去最高の成績を収めました。さらに高宮千聖選手(スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科1年)は、令和3年7月16日(金)～7月17日(土)に富山県呉羽CCで開催された、北陸オープンゴルフトーナメント2021において、ベストアマチュア賞を獲得、現役のツアー選手が多く出場する中、総合で2位という素晴らしい成績を収めました。



陸上競技部 5種目で全国大会の出場権を獲得!

令和4年5月14・15日に開催された第96回北信越学生陸上競技対校選手権において、陸上競技部の学生が5種目で全国大会(日本学生陸上競技対校選手権大会:日本インカレ)の出場権を獲得しました。5種目での全国大会出場は史上初で、優勝は20数年ぶりの快挙になりました。100mで優勝した木下直(スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科3年)は準決勝で10秒41を記録し、創部以来初めて100mで日本選手権の標準記録を突破しました。また、木下直選手は最優秀選手にも選出されました。



男子ホッケー部 本学生がHeroアジアカップ2022フル出場

令和4年5月23日からインドネシア・ジャカルタで開催された「第11回Heroアジアカップ2022」に男子日本代表チーム(サムライジャパン)として、本学 男子ホッケー部 佐伯郁海 選手、渡邊宏樹 監督はコーチとして出場しました。佐伯郁海 選手がMF(ミッドフィルダー)として全試合に出場し、パキスタン戦では日本代表初ゴールを決めました。

佐伯郁海 選手(工学部 建築土木工学科3年)

初の国際大会だけに緊張しましたが、日の丸を背負っている自信と責任を持ち戦うことができました。パキスタン戦では代表初ゴールも決めることが出来るととても嬉しいです。W杯出場が決まりましたがこの結果に満足せず、アジアチャンピオンになって日本に帰国したいと思います。



主要な取組成果

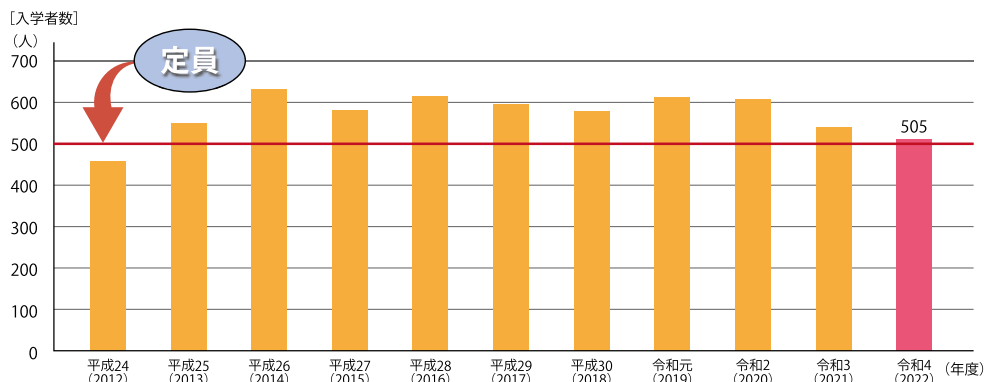
入学者は10年連続で定員を充足

平成27(2015)年度に工学部、環境情報学部、スポーツ健康科学部の3学部体制となり、教育研究の充実を図ってきました。地域や産業界の期待に応える教育プログラム、様々な学生支援、各クラブの輝かしい成績等が評価され、入学者は定員を確保しています。

また、近年、データサイエンス並びに人工知能(AI)の普及により、様々な分野でデータの利活用が進み、モノづくりのデジタル化やサービス産業の多様化により、データサイエンスを基礎とする事業者や技術者の育成が地方圏の課題解決及び活性化に必要不可欠となっています。時代の要請に対応した人材育成のため、令和5(2023)年4月に既存の学部にて「経営情報学部」を加え、4学部8学科体制になります。きめ細やかな教育を目指し、教職員一丸となって全力でサポートして参ります。

入学者の推移

入学者は10年連続で定員を上回る人数を確保しています。



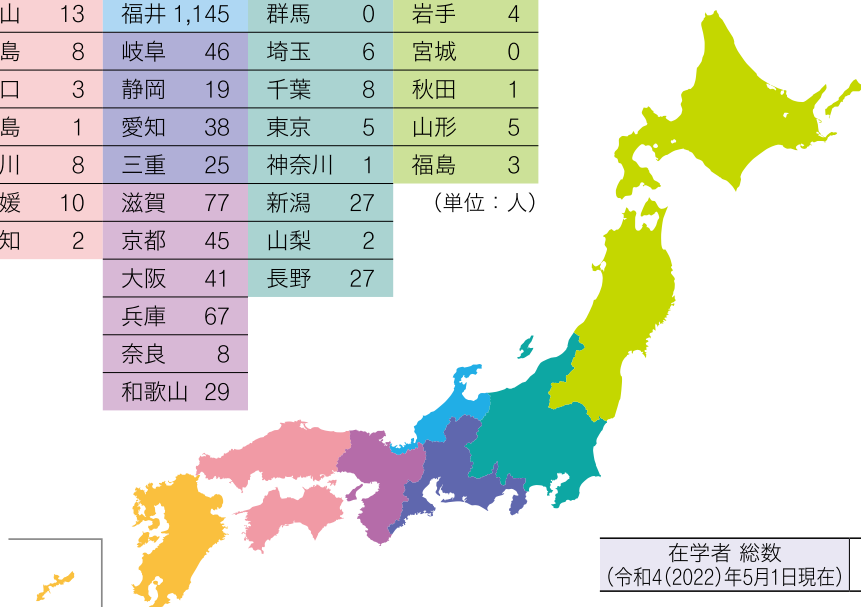
在学者における出身県別一覧

地元福井だけでなく全国44都道府県及び海外から多くの学生が本学へ入学しています。

福岡 14	鳥取 2	富山 185	茨城 0	北海道 3
佐賀 3	島根 5	石川 173	栃木 0	青森 0
長崎 2	岡山 13	福井 1,145	群馬 0	岩手 4
熊本 9	広島 8	岐阜 46	埼玉 6	宮城 0
大分 3	山口 3	静岡 19	千葉 8	秋田 1
宮崎 4	徳島 1	愛知 38	東京 5	山形 5
鹿児島 11	香川 8	三重 25	神奈川 1	福島 3
沖縄 14	愛媛 10	滋賀 77	新潟 27	
	高知 2	京都 45	山梨 2	
		大阪 41	長野 27	
		兵庫 67		
		奈良 8		
		和歌山 29		

(単位：人)

留学生105



在学者 総数 (令和4(2022)年5月1日現在)	2,207
------------------------------	-------

01 使命・目的/教育方針/教育目標/人材の養成及び教育研究上の目的

01-1 使命・目的

学部

建学の精神に基づく使命・目的は福井工業大学学則第1条に規定されている。

学校法人金井学園が設置する福井工業大学は、本学園建学の精神に基づいて、質実剛健な気風と、愛国心の涵養に努め、人格円満にして徳性の高い社会人を育成するとともに、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い高い教養と工学に関する高度な専門知識・技術を身に付けた人材を育成することを使命とし、教育研究活動を通して地域社会の発展に寄与するとともに、広く人類社会の福祉に貢献することを目的とする。

それに沿って以下のような人材の育成を目指している。

1. 国家・社会の形成者にふさわしい人格と教養を身に付け、人類社会に貢献する高い志をもつ人材の育成
2. 日本の歴史・文化を正しく理解し、自国を愛する健全な精神を身に付けた真の国際人の育成
3. 質実剛健な気風を養い、人格円満にして高い徳性を身に付けた社会人の育成
4. 多様かつ急速な科学技術の変化にも柔軟に対応できるように十分な工学基礎知識と専門知識を身に付けた技術者の育成
5. 創造的に物事を考え、自主的に課題を解決する能力を身に付けた実践的な技術者の育成

大学院

大学院においても建学の精神に基づく使命・目的が定められ、福井工業大学大学院学則第1条に規定されている。

福井工業大学大学院は、建学の精神と本学の教育理念に基づき、各専攻の専門分野における学術の理論と、応用に関する教育と研究を行い、広い視野と高度の専門知識・技術及び研究能力を身に付け、人類社会の福祉に貢献するとともに、国際的に活躍できる高度技術者・研究者を育成する。

01-2 教育方針

使命・目的を達成するための教育方針は以下の通りである。

本学は、日本人としての誇りと自覚をもって、人間性の尊厳に根ざした豊かな教養を培い、自然と調和した生活を創り出せる高度の科学知識・工学技術を身につけて、自主的、創造的に活動し、国家社会の発展と人類の福祉に貢献する人材の育成に努める

01-3 教育目標

教育方針に従った課程ごとの具体的な教育目標は以下の通りである。

学士課程

1. 豊かな人間性と高度な専門知識・技術を身につけ、創造的なものごとを考え、自主的に課題を解決する能力を身に付けた専門職業人の育成
2. 国家・社会の形成者にふさわしい教養と人から尊敬され愛される人間性を身につけ、社会に貢献する高い志をもつ人材の育成
3. 自国を愛する健全な精神を身につけ、異文化を理解する心をもった真の国際人の育成
4. 確かな英語力とコミュニケーション能力を身につけ、グローバル社会で活躍できる人材の育成

大学院博士前期課程

- ・ 広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における理論と応用の研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。

大学院博士後期課程

- ・ 専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を養うものとする。

01-4 人材の養成及び教育研究上の目的

学部

各学部・学科の人材の養成及び教育研究上の目的は、次のとおりである。

学 部	人材の養成及び教育研究上の目的
工 学 部	工学部は、高い教養と工学に関する高度の専門知識・技術を身に付け、ものづくり産業の発展に貢献できる人材を養成する。
環境情報学部	環境情報学部は、社会のあらゆる場合において用いられる情報、デザイン及び環境に関する教育研究を通じ、幅広い分野で活躍できる創造性豊かな人材を養成する。
スポーツ健康科学部	スポーツ、健康に関する基礎知識・基礎理論への総合的・学術的な理解を持ち、科学的な視点からスポーツ・健康産業界や地域スポーツ指導の発展に貢献できる人材を養成する。

学 科	人材の養成及び教育研究上の目的	
工 学 部	電気電子工学科	電気電子工学の分野において、電気・エネルギー・電子材料・コンピュータ・計測技術・自動制御などの専門教育の実践並びにこれらに関する先端技術の研究の推進を通して、環境・エネルギー・情報通信システムにわたる高度な専門技術と幅広い教養を身に付け、世の中の変化に柔軟に対応し、グローバルに活躍できる電気電子工学分野の人材を養成する。
	機械工学科	ものづくりの基礎となる専門知識と技術の教育・研究、及び自動車の構造や整備に関する専門教育を行い、福祉・医療用機器やロボットを含む各種産業・運輸用機械・設備の設計や製造など、ものづくりに必要な幅広い知識と技術をもち、自ら進んで最先端の課題に取り組み、解決していける豊かな人間力を有し、国際社会や地域社会で活躍できる人材を養成する。
	建築土木工学科	現代建築および伝統的木造建築に必要な建築技術・設計法、建築計画、構造、材料、環境設備などに関する教育・研究、および自然環境と共生し、人にやさしく自然災害に強い安全・安心で豊かな国土の創出および社会基盤の整備・維持管理に必要な専門的土木技術の教育・研究を行い、専門技術者として建設業界で活躍する人材を養成する。
	原子力技術応用工学科	原子炉、原子燃料サイクル、保全技術、放射線などについて、各人の個性、希望に合わせた特定分野の専門教育を行い、原子力技術・放射線技術を用いた安全で安心な社会を実現させるための研究を行う。また、福井県内外の研究機関や原子力技術での現場実習を豊富に取り入れるとともに、「専門職」として求められる放射線主任者、技術士補や非破壊検査技術者などの資格取得にも力を入れ、原子力・放射線分野に関する多くの知識を社会に伝えることの出来るコミュニケーション能力及び高い倫理観を持つ人材を養成する。
環境情報学部	環境食品応用化学科	化学・生物学の基礎から環境・食品の専門に至る体系化された教育とこれらに関する最先端研究を通して、氾濫する様々な情報に惑わされることなく、多角的な視点と深い洞察力で環境や食品に関連する重要課題の解決・改善に取り組むことができる幅広い科学技術の知識と応用力、豊かな創造性、揺るぎない倫理観を身に付けた人材を養成する。
	経営情報学科	マネジメントに関する資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を総合的にとらえ、企業活動や公共社会に関する基本的知識・技術を体系的・科学的に理解・習得し、また、情報通信技術に関する最新の知識・技術を備え、システム開発プロジェクトの一員として高度情報社会に貢献できる、高い倫理観を備えた経営情報分野の人材を養成する。
	デザイン学科	住宅及びインテリアのデザインを軸とした環境デザイン、工業製品のデザインを軸としたプロダクトデザイン、グラフィック・映像・CG・WEBなどを軸とした情報デザインに関する専門教育の実践、工学と芸術の融合を目指す作品の制作や研究活動、デザイン的発想を活用した商品企画や社会貢献を通して、美しく快適で持続可能な生活環境の創造に携わるデザイナーやデザインに関わる人材を養成する。
健康科学部	スポーツ健康科学科	スポーツ、健康に関する基礎知識・基礎理論への総合的・学術的な理解を持ち、科学的な視点からスポーツ・健康産業界や地域スポーツ指導の発展に貢献できる人材を養成する。

大学院

各専攻の人材の養成及び教育研究上の目的は、次のとおりである。

専攻・課程		人材の養成及び教育研究上の目的
大学院 工学 研究科	応用理工学専攻	<p>電気電子情報工学、宇宙情報科学、機械工学、環境生命化学、原子力技術応用工学の5コースを設置し、以下のような各コースの専門分野の教育並びに研究を行い、広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成する。各コースの専門分野は、以下の通りである。</p> <hr/> <p>(電気電子情報工学コース)：電力工学、電子材料・デバイス工学、物性工学、制御工学、コンピュータ情報工学、人工知能</p> <p>(宇宙情報科学コース)：宇宙環境科学、地球環境計測工学、衛星通信工学、情報処理工学</p> <p>(機械工学コース)：材料工学、振動工学、流体工学、熱工学、機械システム工学</p> <p>(環境生命化学コース)：応用化学、環境科学、材料科学、応用生物学、生命科学、生体工学</p> <p>(原子力技術応用工学コース)：原子力工学、原子力発電工学、放射線応用工学</p>
		<p>博士後期課程</p> <p>電気電子情報工学、宇宙情報科学、機械工学、環境生命化学、原子力技術応用工学の5コースにおける専門分野の教育並びに研究を行い、基幹あるいは先端理工学分野における目覚ましい科学・技術の発展に対応できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を養成する。</p>
	社会システム学専攻	<p>博士前期課程</p> <p>土木工学、建築学、デザイン学、経営情報学の4コースを設置し、各コースの専門分野の教育並びに研究を行い、広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成する。各コースの専門分野は、以下の通りである。</p> <hr/> <p>(土木工学コース)：土木計画学、水工学、環境工学、地盤工学、構造工学、防災工学</p> <p>(建築学コース)：建築論・計画・設計、伝統木造建築、建築構造工学、建築環境・設備</p> <p>(デザイン学コース)：生活創造科学、生産・環境デザイン学、情報・伝達デザイン学</p> <p>(経営情報学コース)：経営学、政策科学、情報科学</p>
		<p>博士後期課程</p> <p>土木工学、建築学、デザイン学、経営情報学の4コースにおける専門分野の教育並びに研究を行い、建築や社会基盤の計画・調査・設計・施工・維持管理、デザインによる生活文化や生産・環境・情報の価値創造、プロジェクトマネジメント及び望ましい情報社会の構築に貢献できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を養成する。</p>

01-5 3つのポリシー

学部

ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)とは、本学で卒業を認定し、学士の学位を授与するに当たって、卒業までに身に付けておくべき資質・能力等を示したものです。

カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)とは、教育目標やディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を達成するために必要な教育課程の編成、授業科目の内容および教育方法について、基本的な考え方を示したものです。

アドミッション・ポリシー

福井工業大学(以下、「本学」という。)は、学校法人金井学園(以下、「本学園」という。)の「建学の精神」および本学の「教育方針」に則り、学部・学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に定めた学修目標と人材育成を達成できる潜在的な能力を有した学生を求めて、以下の通り、学科毎にアドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)を定めています。

工学部

※本学の3つのポリシーは本学ホームページに掲載しております。本要覧掲載の3つのポリシーは一部抜粋したものです。

ディプロマ・ポリシー(工学部共通)

- (DP1) それぞれの学科もしくは専門分野において必要と考えられる基本的な知識を身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP2) それぞれの学科もしくは専門分野において必要と考えられる専門的な知識・技術を身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP3) 技術者あるいは社会人として国内外で活躍するためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション力、および他者と連携・協働することのできるチームワーク力を身に付けている。〔汎用的技能〕
- (DP4) 社会人になるための心構え、および社会や人の役に立ちたいという意欲を持っている。〔態度・志向性〕
- (DP5) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、論理的かつ創造的な思考によって課題解決に取り組むことのできる基本的な能力を身に付けている。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

電気電子工学科

カリキュラム・ポリシー

- (CP1) 電気電子情報工学を学修する上で必要となる基礎的・基本的な知識を、電気電子情報工学分野の実践的な知識・技術と関連付けて身に付ける。〔知識・理解〕
- (CP2) 電気エネルギー、電子デバイス、コンピュータ技術、情報通信技術など電気電子情報工学分野で求められる実践的な専門知識と技術を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 電気電子情報工学分野の技術者として国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚と英語力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 電気電子情報工学分野の課題を自ら探求し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)等を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 社会の一員としての技術者の意識と社会的責任感・倫理観、および社会に役立つ新しい製品や技術を主体的に創り出そうとする姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して主体的に学び続ける姿勢と、学科での様々な学修を通して自律した技術者として社会生活を送ることができる態度を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

アドミッション・ポリシー

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(特に数学、物理)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 電気や電子に関連して生じる現象や事象について、調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 電気・電子・情報・通信工学に関心があり、将来その分野の技術者として国内外で活躍し、社会に貢献したいという意欲を持っている。〔関心・意欲〕
- (AP4) 電気・電子分野に関連するプロジェクトなどの課外活動にも主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

機械工学科

カリキュラム・ポリシー

- (CP1) 機械工学を学修する上で必要となる基礎的・基本的な知識を、機械工学分野の実践的な知識・技術と関連付けて身に付ける。〔知識・理解〕
- (CP2) 「ものづくり」の根本を理解し、機械工学の知見・諸原理・技術など「ものづくり」に求められる実践的な専門知識と技術を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 機械技術者として国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚と英語力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 機械工学分野の課題を自ら探求し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)等を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 社会の一員としての技術者の意識と社会的責任感・倫理観、および社会に役立つ新しい製品や技術を主体的に創り出そうとする姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して主体的に学び続ける姿勢と、学科での様々な学修を通して自律した機械技術者として社会生活を送ることができる態度を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

アドミッション・ポリシー

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(特に数学、物理)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 機械や装置のメカニズムに興味があり、その動作から機械や装置の仕組みについて自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕

- (AP3) 「ものづくり」に関心があり、新しいものを自ら作り出したという意欲と機械技術者として国内外で活躍したいという希望を持っている。〔関心・意欲〕
- (AP4) チャレンジ精神を有し、自ら課題を見つけ、その解決のため

めに粘り強く主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕

- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

建築土木工学科

カリキュラム・ポリシー

- (CP1) 建築学および土木工学を学修する上で必要となる基礎的・基本的な知識を、建築・土木分野の実践的な知識・技術と関連付けて身に付ける。〔知識・理解〕
- (CP2) 建築学と土木工学の根底をなす考え方の相違点と共通点を理解し、建築・土木分野で必要とされる実践的な専門知識と技術を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 建築・土木技術者として地域社会および国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚と英語力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 建築・土木工学分野の課題を自ら探求し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)等を通して修得する。〔汎用的技能〕

- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 建築・土木技術者として、地域社会および国際社会において貢献できる社会的責任感と高い倫理観を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して能動的に学修し続ける姿勢と、学科での様々な学修を通して自律した建築・土木技術者として社会生活を送ることができる態度を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

アドミッション・ポリシー

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(特に数学的思考力)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 建築・土木分野の知識・技術に興味があり、これまで造られてきた建築物や土木構造物に対して自分なりの考えを持っている。〔思考・判断〕
- (AP3) 建築・土木分野の「ものづくり」に関心があり、将来その分

野の技術者として、地域社会および国内外で活躍したいという意欲を持っている。〔関心・意欲〕

- (AP4) 建築や土木に関連するプロジェクトなどの課外活動にも積極的に参加し、課題の発見と解決に向けて粘り強く主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

原子力技術応用工学科

カリキュラム・ポリシー

- (CP1) 原子力および放射線を学修する上で必要となる基礎的・基本的な知識を、原子力・放射線分野の実践的な知識・技術と関連付けて身に付ける。〔知識・理解〕
- (CP2) 原子力・放射線と電気・機械・化学・生物分野との関連性を理解し、放射線計測や法令など原子力・放射線分野で求められる実践的な専門知識と技術を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 原子力・放射線分野の技術者として国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚と英語力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 原子力・放射線分野の課題を自ら探求し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)等を通して修得する。〔汎用的技能〕

- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 社会の一員としての技術者の意識と社会的責任感・倫理観、および社会に役立つ新しい製品や技術を主体的に創り出そうとする姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して主体的に学び続ける姿勢と、学科での様々な学修を通して自律した技術者として社会生活を送ることができる態度を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

アドミッション・ポリシー

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(特に数学、物理)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 原子力や放射線の応用について、調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 原子力や放射線に関心があり、将来その分野の技術者として国内外で活躍し、社会に貢献したいという意欲を持つ

ている。〔関心・意欲〕

- (AP4) 原子力技術や放射線利用の発展に向け、現時点で自らができることに粘り強く主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

環境情報学部

環境食品応用化学科

ディプロマ・ポリシー

- (DP1) 環境および食品の分野において必要と考えられる基本的な知識を身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP2) 環境および食品の分野において必要と考えられる専門的な知識・技術を身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP3) 環境あるいは食品の分野の技術者として、国内外で活躍するためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション力、および他者と連携・協働することのできるチームワーク力を身に付けている。〔汎用的技能〕
- (DP4) 環境あるいは食品の分野の技術者として社会に出るための責任感と倫理観、および環境の保全・保護や食の安全・安心に貢献したいという意欲を持っている。〔態度・志向性〕
- (DP5) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、創造的かつ論理的な思考によって課題解決に取り組むことのできる基本的な能力を身に付けている。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

カリキュラム・ポリシー

- (CP1) 環境および食品を学修する上で必要となる基礎的・基本的な知識を、環境・食品分野の実践的な知識・技術と関連付けて身に付ける。〔知識・理解〕
- (CP2) 社会、自然、地球規模の視点で環境と食品を捉えることの重要性を理解し、環境・食品分野で求められる実践的な専門知識と技術を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 環境や食品に関連した多種多様な情報の中から、科学的根拠に基づいて有用で信頼性の高い情報を適切に選択できる判断力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 環境や食品に係る課題を自ら探求し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 倫理教育を通して倫理観と責任感、さらには環境や食品をめぐる倫理的諸問題を社会の一員として適正に判断する姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と努力を惜しまない姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

アドミッション・ポリシー

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(化学あるいは生物)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 環境汚染や食糧危機がもたらす影響について情報を整理し、自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 環境や食品の課題に関心を持ち、将来その解決・改善に取り組みたいという意欲を持っている。〔関心・意欲〕
- (AP4) 本学科が関係するプロジェクトやボランティアなどの課外活動にも主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

経営情報学科

ディプロマ・ポリシー

- (DP1) 経営学、経済学、情報学の分野において必要と考えられる基本的な知識を身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP2) 「経営情報」を「ヒト・モノ・カネ・情報」および「地域・流通」の専門的視点で捉えるとともに、地域活性化や産業振興と関連付けて理解している。〔知識・理解〕
- (DP3) 経営や経済、情報技術等の専門家として、国内外で活躍するためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション力、および他者と連携・協働することのできるチームワーク力を身に付けている。〔汎用的技能〕
- (DP4) 社会の一員として求められる倫理観と責任感、および高度情報社会のさらなる発展に貢献したいという意欲を持っている。〔態度・志向性〕
- (DP5) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、創造的かつ論理的な思考によって課題解決に取り組むことのできる基本的な能力を身に付けている。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

カリキュラム・ポリシー

- (CP1) 経営学、経済学、情報学に関する基本的な知識と考え方を身に付けるとともに、それらを体系的に理解する。〔知識・理解〕
- (CP2) 経営、経済、情報に関する専門分野科目の履修を通して、ヒト・モノ・カネ・情報・地域・流通の視点で「経営情報」を捉えることの重要性を理解する。〔知識・理解〕
- (CP3) 経営や経済、情報技術等に関連した多種多様な情報の中から、基準や根拠に基づいて有用で信頼性の高い情報を適切に選択できる判断力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 有益な情報に基づいて自ら課題を探求し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 倫理教育を通して倫理観と責任感、さらには経営や経済、

- 情報学をめぐる倫理的諸問題を社会の一員として適正に判断する姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と努力を惜しまない姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕

アドミッション・ポリシー

- (AP1) 企業経営、経済、情報通信に対する知的好奇心と本学科の修学に必要な基礎学力を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 高度情報社会におけるプラスとマイナスの両面について情報を整理し、自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 社会から歓迎される企業人、政策担当者、情報技術者として、国内外を問わず社会に幅広く貢献したいという意欲と

る。〔態度・志向性〕

- (CP8) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を身に付ける。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

向上心を持っている。〔関心・意欲〕

- (AP4) 本学科が関係するプロジェクトやボランティアなどの課外活動にも主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

デザイン学科

ディプロマ・ポリシー

- (DP1) デザインを理解するために必要な基本的な知識、産業や文化における様々な課題や多様な価値観に対する理解、ならびにデザインを人や社会のために役立てるための考え方を身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP2) 一般的なメディアや表現方法を用いて実用性のある基礎的な作品を制作することの意義、ならびに社会性のある価値基準や思想、独自のデザイン観に根ざした信念などに基づいて新規性または独創性のあるデザインの解決を導くための方法を理解している。〔知識・理解〕
- (DP3) 自らの所属するチームの中で円滑かつ創造的に協働できる協調性と自己管理能力、および目的達成のために必要

となるコミュニケーション能力とプレゼンテーション力を身に付けている。〔汎用的技能〕

- (DP4) 社会の一員として求められる倫理観と責任感、および人類の生活の向上や産業の発展、持続可能な社会の実現に貢献したいという意欲を持っている。〔態度・志向性〕
- (DP5) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、創造的かつ論理的な思考ならびに試行錯誤を厭わない多様な手段で課題解決に取り組むことのできる基本的な能力を身に付けている。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

カリキュラム・ポリシー

- (CP1) デザインに関する基本的な知識と考え方を身に付けるとともに、それらを実際に活用できる形で理解する。〔知識・理解〕
- (CP2) 環境・ヒト・モノ・情報の関係性について各自の視点や立場から理解し、それらを産業・文化・生活に役立てるためのデザイン活動に生かすようにする。〔知識・理解〕
- (CP3) デザイナーあるいはデザインの専門家として国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキル、プレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) デザインを通して解決すべき問題を常に意識し、それを必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力とその過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、実習・演習における作品制作や課題解決型学習 (PBL) を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と円滑に協働できる協調性や自己管理能力などの

チームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、およびその過程で求められる議論力を身に付ける。〔汎用的技能〕

- (CP6) デザインの社会的役割やデザイナーの職能を理解し、社会の一員として求められる責任感と倫理観、デザイナーあるいはデザインの専門家として社会に役立つ新しい価値観や製品を主体的に創り出そうとする姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) 作品制作体験やアクティブ・ラーニング等を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と困難な課題においても試行錯誤を厭わない姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題について論理的に思考できる能力および解決に向けて創造的な提案ができるコンセプト立案能力を修得する。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

アドミッション・ポリシー

- (AP1) デザインに対する知的好奇心と本学科の学びに必要な基礎学力(分野・教科を問わない)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 「デザインの力」について、自らの手足と頭を使って調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 人と社会の未来に関心があり、新しい価値観の提案や豊かで美しく快適な生活環境の創造に意欲を持っている。

〔関心・意欲〕

- (AP4) 他者の意見に耳を傾け、幅広い価値観を理解することができ、自らの考えを他者に伝えるコミュニケーションを楽しむことができる。〔態度〕
- (AP5) 自らの感動をことば、絵、身体で表現したいという意欲やみんなと一緒に何かを生み出したいという思いを持っている。〔技能・表現〕

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

ディプロマ・ポリシー

- (DP1) スポーツ健康科学の分野において必要と考えられる基本的な知識を身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP2) スポーツの指導者やサポートスタッフとしての職務遂行に必要な専門的知識・技術を身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP3) スポーツ・健康産業界のビジネスマン、研究者、あるいは地域で活躍するスポーツ指導者として必要な分析力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション力、指導力およびチームワーク力を修得している。〔汎用的技能〕
- (DP4) 社会の一員として求められる倫理観と責任感、およびスポーツの発展や人々の健康づくり、社会の福祉に貢献したいという意欲を持っている。〔態度・志向性〕
- (DP5) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、創造的かつ論理的な思考によって課題解決に取り組むことのできる基本的な能力を身に付けている。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

カリキュラム・ポリシー

- (CP1) スポーツ健康科学を学修する上で必要となる基礎的・基本的な知識を、スポーツ・健康関連分野の実践的な知識・技術と関連付けて身に付ける。〔知識・理解〕
- (CP2) スポーツ、健康、ビジネス等に関する専門分野科目の履修を通して、スポーツの指導者やサポートスタッフとしての職務遂行に必要な専門的知識・技術を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) スポーツ・健康産業界のビジネスマン、研究者、あるいは地域で活躍するスポーツ指導者として必要となる分析力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション力、指導力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 有用な情報に基づいて自ら課題を探索し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習 (PBL) を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 倫理教育を通して倫理観と責任感、さらにはスポーツや健康をめぐる倫理的諸問題を社会の一員として適正に判断する姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と努力を惜しまない姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学修経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学修経験と創造的思考力〕

アドミッション・ポリシー

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力と基本的な学習スキル（文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる）を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) スポーツが人の心身の健康に与える効果について、調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) スポーツ健康科学の理論・技術を身に付けた指導者・スタッフとして、スポーツや健康関連の分野で貢献したいという意欲を持っている。〔関心・意欲〕
- (AP4) スポーツあるいは健康関連のプロジェクトやボランティアなどの課外活動にも主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕



大学院

ディプロマ・ポリシー

工学研究科では、博士前期課程および博士後期課程の学位プログラムに基づく体系的な教育課程に即して実践される教育と研究を通して、各専攻で定める以下の能力を身につけ、所定の単位を修得し、論文審査と学位規程に定める最終試験に合格したものに学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

工学研究科では、本学園の「建学の精神」と本学の「教育方針」に則り、応用理工学専攻および社会システム学専攻の各ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるために、コース毎にカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め、博士前期課程においては2年間、後期課程においては3年間の学位プログラムに基づく体系的な教育課程を編成している。博士前期課程では、各専攻・各コースの専門分野における高度の知識・技術のみならず、広い視野に立って関連分野や学際領域の幅広い知識・技術・考え方を身につけることを目的に、広範なコースワークを重視した2専攻共通科目、全コース共通科目、複数コース共通科目およびコース専門科目からなるカリキュラムを構築している。博士後期課程においては、博士前期課程における幅広い専門教育と研究を基盤として、指導教員の下での研究指導に力点を置いた教育課程を編成している。

アドミッション・ポリシー

福井工業大学（以下、「本学」という。）大学院工学研究科（以下、「工学研究科」という。）は、応用理工学専攻と社会システム学専攻の2専攻で構成され、それぞれの専攻に博士前期課程（標準修業年限2年）と博士後期課程（同3年）からなる博士課程が置かれている。各専攻には複数のコースが設けられ、博士前期課程では主として高度専門職技術者の養成、博士後期課程では主として研究者の養成に重点を置いている。工学研究科では、学校法人金井学園（以下、「本学園」という。）の「建学の精神」および本学の「教育方針」に則り、専攻・課程のディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）に定めた学修目標と人材育成を達成できる潜在的な能力を有した学生を求めて、以下の通り、コース毎にアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を定めている。

大学院工学研究科

※本学の3つのポリシーは本学ホームページに掲載しております。本要覧掲載の3つのポリシーは一部抜粋したものです。

ディプロマ・ポリシー

【応用理工学専攻】

《博士前期課程》

以下の能力を身につけ、所定の単位を修得し、論文審査と学位規程に定める最終試験に合格したものに修士（工学）の学位を授与する。

1. 科学技術の意義と重要性を理解し、コースの専門分野で必要とされる高度な専門知識・技術と倫理観を身につけている。
2. 科学技術の発展のために、コースの専門分野で必要とされる研究能力を有している。
3. コースにおいて修得した高度な専門知識・技術と研究能力を基に、自ら課題を発見・設定し、論理的に解決する能力を身につけている。
4. コースの専門分野において得た研究成果を社会に公表し、修士論文を作成する能力を有している。

《博士後期課程》

以下の能力を身につけ、論文審査と学位規程に定める最終試験に合格したものに博士（工学）の学位を授与する。

1. 科学技術の意義と重要性を深く理解し、コースの専門分野で必要とされるより高度な専門知識・技術と高い倫理観を身につけている。
2. 科学技術のさらなる発展のために、コースの専門分野の研究者として学際的・国際的な研究を推進できる能力を有している。
3. コースにおいて修得したより高度な専門知識・技術と研究能力を基に、柔軟な思考と高い見識で自ら課題を発見・設定し、独創的に解決する能力を身につけている。
4. コースの専門分野において得た研究成果を社会に積極的に公表し、博士論文を作成する能力を有している。

【社会システム学専攻】

《博士前期課程》

以下の能力を身につけ、所定の単位を修得し、論文審査と学位規程に定める最終試験に合格したものに修士（工学）の学位を授与する。

1. 社会システムの意義と重要性を理解し、コースの専門分野で必要とされる高度な専門知識・技術と倫理観を身につけている。
2. 複雑な社会システムに対応するために、コースの専門分野で必要とされる研究能力を有している。
3. コースにおいて修得した高度な専門知識・技術と研究能力を基に、自ら課題を発見・設定し、論理的に解決する能力を身につけている。
4. コースの専門分野において得た研究成果を社会に公表し、修士論文を作成する能力を有している。

《博士後期課程》

以下の能力を身につけ、論文審査と学位規程に定める最終試験に合格したものに博士（工学）の学位を授与する。

1. 社会システムの意義と重要性を深く理解し、より高度な専門知識・技術と高い倫理観を身につけている。
2. より複雑な社会システムに対応するために、コースの専門分野の研究者として学際的・国際的な研究を推進できる能力を有している。
3. コースにおいて修得したより高度な専門知識・技術と研究能力を基に、柔軟な思考と高い見識で自ら課題を発見・設定し、独創的に解決する能力を身につけている。
4. コースの専門分野において得た研究成果を社会に積極的に公表し、博士論文を作成する能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

【応用理工学専攻】

電気電子情報工学コース

エネルギー、半導体、デバイス、情報技術など広い領域で革新を続ける電気電子情報工学に関して国内外で活躍することのできる高度専門技術者・研究者を育成するために、電力工学、電子材料・デバイス工学、物性工学、制御工学、コンピュータ情報工

学、人工知能の各分野の教育と研究を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

宇宙情報科学コース

地球環境の保全および各種産業の発展に向け、グローバルな視点で宇宙空間の計測技術を活用できる高度専門技術者・研究者を育成するために、宇宙環境科学、地球環境計測工学、衛星通信工学、情報処理工学の各分野の教育と研究を通して専攻の

ディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

機械工学コース

我が国が得意とする「ものづくり」をはじめ、あらゆる産業に関わりをもつ機械工学に関して国内外で活躍することのできる高度専門技術者・研究者を育成するために、材料工学、振動工学、流体工学、熱工学、機械システム工学の各分野の教育と研究を通

して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

環境生命化学コース

資源・エネルギー・地球環境・食料問題など人類が直面している重要課題の解決や持続可能な循環型社会の構築に向け、グローバルな視点で貢献できる高度専門技術者・研究者を育成するために、応用化学、環境科学、材料科学、応用生物学、生命科

学、生体工学の各分野の教育と研究を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

原子力技術応用工学コース

エネルギーの安定供給や各種産業の発展に向け、グローバルな視点で原子力発電技術および放射線応用技術を活用できる高度専門技術者・研究者を育成するために、原子力工学、原子力発電工学、放射線応用工学の各分野の教育と研究を通して専攻

のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

【社会システム学専攻】

土木工学コース

安全安心で持続的発展が可能な社会の基盤となる社会システムの設計・構築、維持・管理に国内外で貢献することのできる高度専門技術者・研究者を育成するために、土木計画学、水工学、環境工学、地盤工学、構造工学、防災工学の各分野の教育と研究

を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

建築学コース

建築と都市・地域社会の調和を図り、快適な都市・居住空間の実現に貢献できる高度専門技術者・研究者を育成するために、建築論・計画、設計、伝統木造建築、建築構造工学、建築環境・設

備の各分野の教育と研究を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

デザイン学コース

生活、技術、文化、芸術などの理解を踏まえて豊かな生活環境を生み出すための魅力的な提案とその実現に貢献できる高度な専門性を備えた人材を育成するために、生活創造科学、生産・環境デザイン学、情報・伝達デザイン学の各分野の実践的な教育と

研究を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

経営情報学コース

今日の高度情報社会で活躍できる能力と倫理観を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成するために、経営学、政策科学、情報科学の各分野の教育と研究を通して専攻のディプロマ・ポリ

シーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

アドミッション・ポリシー

【応用理工学専攻】

電気電子情報工学コース

《博士前期課程》

1. 電気電子情報工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 電気電子情報工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 電気電子情報工学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 電気電子情報工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 電気電子情報工学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

宇宙情報科学コース

《博士前期課程》

1. 宇宙情報科学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 宇宙情報科学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 宇宙情報科学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 宇宙情報科学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 宇宙情報科学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

機械工学コース

《博士前期課程》

1. 機械工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 機械工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 機械工学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 機械工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 機械工学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

環境生命化学コース

《博士前期課程》

1. 環境生命化学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 環境生命化学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 環境生命化学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 環境生命化学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 環境生命化学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

原子力技術応用工学コース

《博士前期課程》

1. 原子力技術応用工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 原子力技術応用工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 原子力技術応用工学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 原子力技術応用工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 原子力技術応用工学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

【社会システム学専攻】

土木工学コース

《博士前期課程》

1. 土木工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 土木工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 土木工学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 土木工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 土木工学の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

建築学コース

《博士前期課程》

1. 建築学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 建築学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 建築学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 建築学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 建築学の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

デザイン学コース

《博士前期課程》

1. デザイン学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. デザイン学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. デザイン学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. デザイン学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. デザイン学分野の高度な専門性を身につけたスペシャリストとしての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

経営情報学コース

《博士前期課程》

1. 経営情報学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 経営情報学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 経営情報学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 経営情報学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 経営情報学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人



学位記授与式(大学)



学位記授与式(大学院)

02-1 評価方法

単位認定と評定

単位修得の認定には、試験(筆記試験・レポート・その他)の評定をもって行い、100点を満点として60点以上が所定単位を修得したことになります。さらに合格した科目の公表は、秀(90以上)、優(80以上)、良(70以上)、可(60以上)の4種類で表され、不合格の場合は不可(60未満)で表します。

一度単位を修得した科目については、単位の取り消しや再履修ができません。

成績評価、履修指導にGPA制度を採用

本学では、それぞれの学生が受講登録した科目について、一人ひとりのGPA(Grade Point Average)を算出しています。GPAは「成績加重平均値」といわれるものです。大学のカリキュラムにおいては、専門分野が多岐にわたり、個々の学生の修学目標も異なります。このように多様なカリキュラムにおいて、「学ぶ量」だけでなく「学ぶ質」を、できるだけ公平に評価する一つの方法としてGPA制度があります。このGPAを参考にしながら、履修指導や学生生活支援、就職相談などが行われます。成績や学習意欲向上のための目安とされています。

02-2 卒業・修了に必要な単位数・取得可能な学位

卒業・修了までに必要な単位数

学部 卒業までに次の要件を含め合計124単位以上の修得が必要です。(必修科目+選択科目)

	入学年度	分野	系	卒業条件(区分別卒業所要単位数)			
工 学 部	令和元 (2019)年度 ～ 令和4 (2022)年度	教養分野	人文社会	10単位以上 (A～C群の各群において 最低2単位を含む)	必修科目を含めて 52単位以上	必修科目を含めた 修得単位総数 124単位以上	
			外国語	必修科目を含めて20単位以上			
			キャリア形成	必修科目を含めて14単位以上			
			工学基礎	必修科目を含めて 8単位以上			
		専門分野	(各学科の専門分野課程表による)	必修科目を含めて 72単位以上			
環 境 情 報 学 部	令和元 (2019)年度 ～ 令和4 (2022)年度	教養分野	人文社会	10単位以上 (A～C群の各群において 最低2単位を含む)	必修科目を含めて 48単位以上	必修科目を含めた 修得単位総数 124単位以上	
			外国語	必修科目を含めて20単位以上			
			キャリア形成	必修科目を含めて14単位以上			
			科学基礎	必修科目を含めて 4単位以上			
		専門分野	(各学科の専門分野課程表による)	必修科目を含めて 76単位以上			
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 部	令和元 (2019)年度 ～ 令和4 (2022)年度	教養分野	人文社会	10単位以上 (A～C群の各群において 最低2単位を含む)	必修科目を 含めて 48単位以上	左記の所要単位数 以外に4単位以上	必修科目を含めた 修得単位総数 124単位以上
			外国語	必修科目を含めて20単位以上			
			キャリア形成	必修科目を含めて14単位以上			
			科学基礎	必修科目を含めて 4単位以上			
		専門分野	(各学科の専門分野課程表による)	必修科目を 含めて 72単位以上			
※スポーツ健康科学部については、各分野(系)別に定められた卒業所要単位数以外に、教養分野及び専門分野において、4単位以上の単位取得が必要である。この4単位については、個人の興味によって全ての分野の中から任意に選択できる。							

02 学修の成果・卒業認定

授業は2つに分類された科目と教職課程があります。

必修科目

学科・専攻コース別に修得が義務づけられています。

選択科目

それぞれの希望に応じて選択・履修します。

+

教職課程

教員免許状の取得に必要な科目も設定されています。

大学院工学研究科 博士前期課程 博士前期課程修了までに次の要件を含め合計30単位以上の修得が必要です。(必修科目+選択科目)

入学年度	専攻	分野	修了条件	
令和3(2021)年度 令和4(2022)年度	応用理工学専攻 社会システム学専攻	2専攻共通科目	6単位以上	必修科目を含めた 修得単位数総数 30単位以上 かつ研究指導を受ける
		専門分野科目	必修科目を含めて20単位以上	

大学院工学研究科 博士後期課程 博士後期課程修了には次の要件を修めることが必要です。

入学年度	専攻	分野	修了条件
令和4(2022)年度	応用理工学専攻 社会システム学専攻	専門分野科目	必修科目を含めて4単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けることが必要

取得可能な学位

本学において授与する学位の専攻分野の名称は、以下の通りです。

学士の学位

学部名	学科名	専攻分野名
工学部	電気電子工学科	工学
	機械工学科	
	建築土木工学科	
	原子力技術応用工学科	
環境情報学部	環境・食品科学科	環境科学
	環境食品応用化学科	経営情報学
	経営情報学科	
	デザイン学科	デザイン学
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	スポーツ健康科学

修士の学位

研究科名	専攻名	専攻分野名
工学研究科	応用理工学専攻	工学
	社会システム学専攻	

博士の学位

研究科名	専攻名	専攻分野名
工学研究科	応用理工学専攻	工学
	社会システム学専攻	

本学で取得できる教職免許状の種類

■学部

教員免許状の種類		対象学部・学科	
高等学校教諭一種免許状	工業	工学部	電気電子工学科、機械工学科、建築土木工学科、原子力技術応用工学科
		環境情報学部	デザイン学科
	情報	環境情報学部	経営情報学科
	理科	環境情報学部	環境・食品科学科、環境食品応用化学科
	保健体育	スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科
中学校教諭一種免許状	理科	環境情報学部	環境・食品科学科、環境食品応用化学科
	保健体育	スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科

■大学院工学研究科

教員免許状の種類		対象専攻・コース	
高等学校教諭専修免許状	工業	応用理工学専攻	電気電子情報工学コース、宇宙情報科学コース、機械工学コース、環境生命化学コース、原子力技術応用工学コース
		社会システム学専攻	土木工学コース、建築学コース、デザイン学コース
	情報	社会システム学専攻	経営情報学コース

03-1 教員数

職階別専任教員数 大学

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

学部名	学科名	教授		准教授		講師		助教		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
工学部	電気電子工学科	8		3						11	0
	機械工学科	8				1				9	0
	建築土木工学科	10		2						12	0
	原子力技術応用工学科	6		1		1				8	0
環境情報学部	環境食品応用化学科	6	2	1		1				8	2
	経営情報学科	9	1	1		1				11	1
	デザイン学科	3	1	4		1				8	1
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	8		4		1				13	0
基盤教育機構		2	1	1		6		5	1	14	2
計		60	5	17	0	12	0	5	1	94	6

職階別専任教員数 大学院工学研究科 博士前期課程

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

専攻名	教授		准教授		講師		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
応用理工学専攻	28	2	5		3		36	2
社会システム学専攻	29	3	12		4		45	3
計	57	5	17	0	7	0	81	5

職階別専任教員数 大学院工学研究科 博士後期課程

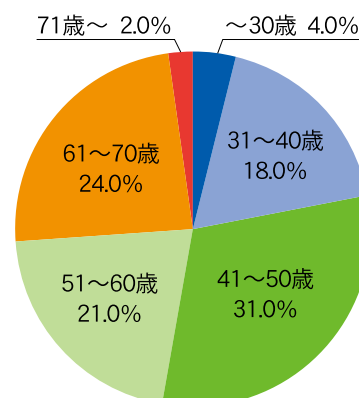
令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

専攻名	教授		准教授		講師		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
応用理工学専攻	25	2	5		2		32	2
社会システム学専攻	23	3	8		1		32	3
計	48	5	13	0	3	0	64	5

年齢別専任教員数 令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

年齢	人数
～30歳	4
31～40歳	18
41～50歳	31
51～60歳	21
61～70歳	24
71歳～	2
計	100

年齢別専任教員割合 令和4(2022)年5月1日現在



専任教員数及び非常勤教員数

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

学部名	学科名	専任教員数	非常勤教員数	計
工学部	電気電子工学科	11	5	16
	機械工学科	9	5	14
	建築土木工学科	12	4	16
	原子力技術応用工学科	8	0	8
環境情報学部	環境食品応用化学科	10	0	10
	経営情報学科	12	5	17
	デザイン学科	9	13	22
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	13	14	27
基盤教育機構		16	30	46
計		100	76	176
割合		56.82%	43.18%	100%

専任教員1人当たりの学生数

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

学部名	学科名	専任教員数	学生数	専任教員1人当り学生
工学部	電気電子工学科	11	341	31.0
	機械工学科	9	346	38.4
	建築土木工学科	12	331	27.6
	原子力技術応用工学科	8	109	13.6
環境情報学部	環境食品応用化学科	10	143	14.3
	経営情報学科	12	392	32.7
	デザイン学科	9	233	25.9
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	13	312	24.0
基盤教育機構		16	—	—
計		100	2,207	22.1

注1) 環境食品応用化学科には、環境・食品科学科を含めて算出。

03-2 職員数

大学事務局 職員数

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

所属	男	女	計
事務局長	1		1
事務局次長	1		1
庶務課	2	3	5
IR課		1	1
学務課	11	10	21
入試広報課	6	5	11
就職支援課	3	5	8
社会連携推進課	6	1	7
国際交流課	2	1	3
センター管理課	5		5
情報メディア課	3		3
計	40	26	66

04 入学者・在学者・卒業者の状況

04-1 入学者

入学者数は次のとおりです。

学部

(単位:人)

学部名	学科名	令和4(2022)		令和3(2021)		令和2(2020)		令和元(2019)	
		男	女	男	女	男	女	男	女
工学部	電気電子工学科	73	1	87	0	86	3	90	5
	機械工学科	72	0	86	0	92	1	98	1
	建築土木工学科	79	7	67	9	80	7	81	6
	原子力技術応用工学科	14	4	23	2	32	4	28	2
環境情報学部	環境食品応用化学科	21	6	18	9	44	11	35	5
	経営情報学科	90	19	92	8	82	8	95	12
	デザイン学科	26	18	36	22	40	28	51	19
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	62	13	67	14	78	9	74	10
計		437	68	476	64	534	71	552	60
		505		540		605		612	

大学院工学研究科

(単位:人)

専攻名		令和4(2022)		令和3(2021)		令和2(2020)		令和元(2019)	
		男	女	男	女	男	女	男	女
博士前期課程	応用理工学専攻	8	1	4	0	6	0	2	0
	社会システム学専攻	4	3	3	0	3	4	5	4
	計	12	4	7	0	9	4	7	4
博士後期課程	応用理工学専攻	1	0	0	0	3	0	3	0
	社会システム学専攻	4	0	2	1	3	4	2	1
	計	5	0	2	1	6	4	5	1

※秋入学者を含む

04-2 収容定員・在学者数・除退者数

収容定員数は次のとおりです。

学部

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

学部名	学科名	収容定員				計
		1年	2年	3年	4年	
工学部	電気電子工学科	80	80	80	80	1,000
	機械工学科	80	80	80	80	
	建築土木工学科	70	70	60	60	
	原子力技術応用工学科	20	20	30	30	
環境情報学部	環境食品応用化学科	40	40	50	50	720
	経営情報学科	90	90	80	80	
	デザイン学科	50	50	50	50	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	70	70	70	70	280
計		500	500	500	500	2,000

大学院工学研究科

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

専攻名		収容定員			計
		1年	2年	3年	
博士前期課程	応用理工学専攻	17	17		34
	社会システム学専攻	8	8		16
	計	25	25		50
博士後期課程	応用理工学専攻	4	4	4	12
	社会システム学専攻	2	2	2	6
	計	6	6	6	18

04 入学者・在学者・卒業者の状況

在学者数は次のとおりです。

学部

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

学部名	学科名	在学者数								計
		1年		2年		3年		4年		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
工学部	電気電子工学科	73	1	85	0	82	3	92	5	1,127
	機械工学科	72	0	84	0	86	1	102	1	
	建築土木工学科	79	7	64	8	79	7	80	7	
	原子力技術応用工学科	14	4	23	2	33	3	28	2	
環境情報学部	環境・食品科学科							32	5	768
	環境食品応用化学科	21	6	18	9	41	11			
	経営情報学科	90	19	91	8	73	7	92	12	
	デザイン学科	26	18	32	22	40	25	51	19	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	62	13	64	14	72	9	70	8	312
計		437	68	461	63	506	66	547	59	2,207
		505		524		572		606		

大学院工学研究科

令和4(2022)年5月1日現在(単位:人)

専攻名		在学者数						計
		1年		2年		3年		
		男	女	男	女	男	女	
博士前期課程	応用理工学専攻	8	1	4	0			13
	社会システム学専攻	4	3	4	1			12
計		12	4	8	1			25
		16		9				
博士後期課程	応用理工学専攻	1	0	0	0	4	0	5
	社会システム学専攻	5	0	1	2	3	4	15
計		6	0	1	2	7	4	20
		6		3		11		

社会人学生数

各年度5月1日現在(単位:人)

年度	令和4(2022)	令和3(2021)	令和2(2020)	令和元(2019)
博士前期課程	0	0	0	2
博士後期課程	12	10	14	9

※社会人を対象とした選抜(入試)により入学した学生
 ※研究生、科目等履修生等は含めない

除退学者数は次のとおりです。

学部

(単位:人)

年度	令和3(2021)	令和2(2020)	令和元(2019)	平成30(2018)
退学者	49	47	44	58
除籍者	6	7	6	16
計	55	54	50	74

大学院工学研究科

(単位:人)

年度	令和3(2021)	令和2(2020)	令和元(2019)	平成30(2018)
退学者	2	1	2	3
除籍者	0	0	0	1
計	2	1	2	4

※満期退学を除く

04-3 卒業

卒業生・修了者数は次のとおりです。

学部

(単位:人)

学部名	学科名	卒業生数			
		令和3(2021)	令和2(2020)	令和元(2019)	平成30(2018)
工学部	電気電子工学科	90	79	76	74
	電気電子情報工学科			2	4
	機械工学科	86	82	93	98
	建築土木工学科	70	74	70	70
	建築生活環境学科				2
	原子力技術応用工学科	23	17	31	18
	デザイン学科			2	7
	経営情報学科			1	9
環境情報学部	産業ビジネス学科				2
	環境・食品科学科	33	50	44	57
	デザイン学科	47	56	47	36
スポーツ健康科学部	経営情報学科	100	102	96	90
	スポーツ健康科学科	76	69	80	67
計		525	529	542	534

※前期末卒業を含む

大学院工学研究科

(単位:人)

専攻名		修了者数			
		令和3(2021)	令和2(2020)	令和元(2019)	平成30(2018)
博士前期課程	応用理工学専攻	6	1	11	14
	社会システム学専攻	6	9	6	8
	計	12	10	17	22
博士後期課程	応用理工学専攻	0	3	0	0
	社会システム学専攻	2	1	0	1
	計	2	4	0	1

※前期末卒業を含む

学位授与数

(単位:人)

学位名	令和3(2021)年度授与数		令和2(2020)年度授与数		累計
	前期末	後期末	前期末	後期末	
学士(工学)	4	265	6	246	28,328
学士(環境科学)		33		50	184
学士(経営情報学)	2	98	4	98	388
学士(デザイン学)	1	46	2	54	186
学士(スポーツ健康科学)	3	73	3	66	292
修士(工学)		12	1	9	766
博士(工学)－課程博士		3		4	25
博士(工学)－論文博士					27

教育職員免許状授与者数

(単位:人)

免許状の種類		令和3(2021)年度授与者数	令和2(2020)年度授与者数	令和元(2019)年度授与者数
高等学校専修免許状	工業	0	0	1
	工業	11	17	15
高等学校一種免許状	理科	4	5	3
	情報	1	2	1
	保健体育	20	25	34
中学校一種免許状	理科	4	4	3
	保健体育	16	24	30

04-4 進学及び就職

就職実績

高い就職率を誇るFUT。専門分野の知識を身につけ、豊かな教養と倫理観をもつ技術者として、新たな第一歩を踏み出しています。

就職・進学状況

(令和4(2022)年3月 卒業・修了者)(単位:人)

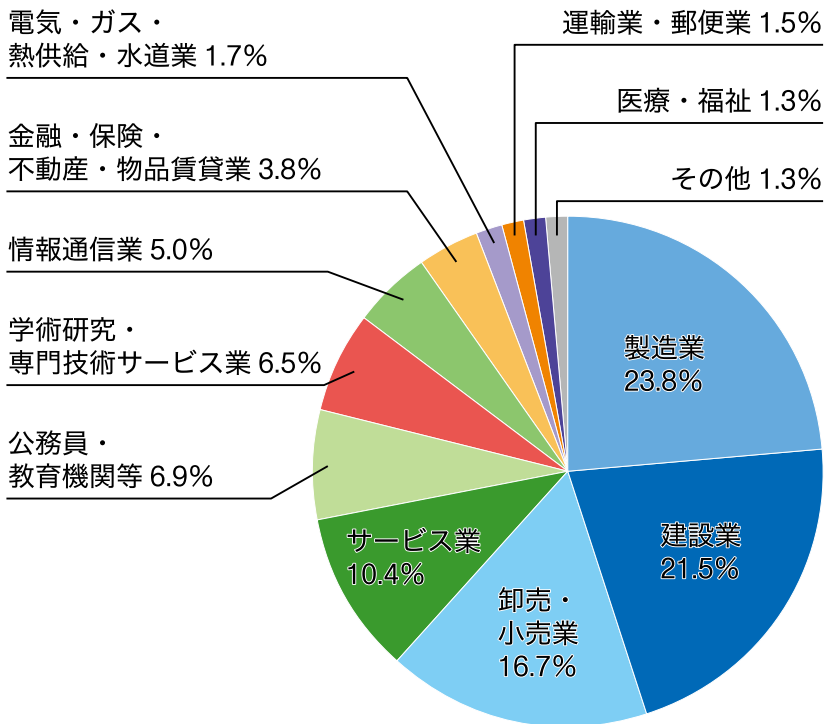
	学部	大学院工学研究科	合計
卒業生数	525	16	541
就職希望者数	470	15	485
就職者数	466	14	480
進学者数	29	0	29
就職率	99.1%	93.3%	99.0%

※就職率=就職者数÷就職希望者数×100

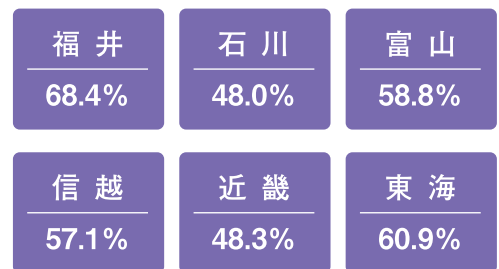
地域別就職割合



業種別就職状況



地元企業へのUターン就職率



オンライン企業説明会

05-1 外部資金・受託研究費

外部研究受入件数の年度毎推移

(単位:件)

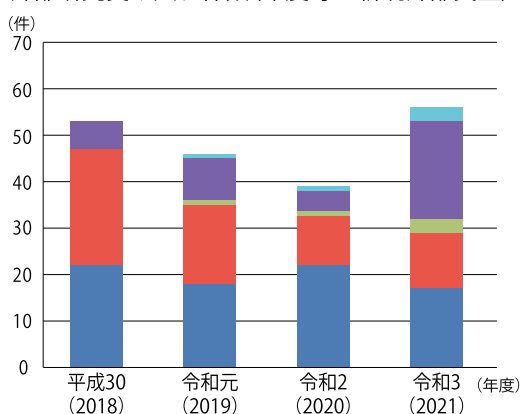
	共同研究費	受託研究費	試験研究費	奨学寄付金	技術開示・指導料	総件数
令和3(2021)年度	17	12	3	21	3	56
令和2(2020)年度	22	10	1	4	1	38
令和元(2019)年度	18	17	1	9	1	46
平成30(2018)年度	22	25	0	6	0	53

外部研究受入資金の年度毎推移

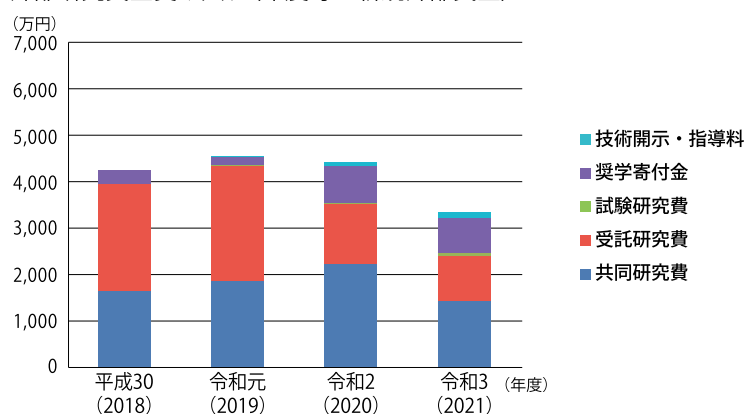
(単位:円)

	共同研究費	受託研究費	試験研究費	奨学寄付金	技術開示・指導料	総額
令和3(2021)年度	14,324,449	9,620,136	554,700	7,669,343	1,059,300	33,227,928
令和2(2020)年度	22,130,490	12,975,929	18,150	7,946,137	880,000	43,950,706
令和元(2019)年度	18,598,393	24,561,838	5,445	1,730,000	198,000	45,093,676
平成30(2018)年度	16,298,693	22,924,067	0	2,992,082	0	42,214,842

外部研究受け入れ件数(年度毎の新規外部資金)



外部研究資金受け入れ(年度毎の新規外部資金)



05-2 知的財産

特許

発 明 名 称	出 願 人	本学発明者	特許番号
ダイズの生長促進方法及びミリ波照射したダイズ種子、および、植物種子にミリ波を照射するミリ波照射システム	学校法人金井学園 国立大学法人福井大学	小松節子	特許公開2022-022539
除染剤	学校法人金井学園 太平電業株式会社	砂川武義	特許公開2021-162430
セル連結型雨水貯留装置及びその洗浄方法	学校法人金井学園	笠井利浩	特許公開2021-161730
接触状態維持方法並びに接触状態維持装置、これを備える鉄道車両用パンタグラフおよび列車	学校法人金井学園 国立大学法人筑波大学	山下清隆 西山直杜	特許公開2021-069212
監視用湿度計測システムおよび監視用湿度計測方法	学校法人金井学園 ニュープレクス株式会社	中尾一成 中道正紀	特許公開2021-038963
形質転換微細藻類及び当該形質転換微細藻類の培養方法	学校法人金井学園 国立大学法人東京農工大学	柏山祐一郎	特許公開2021-013338
旋回流自動洗浄式雨水タンクとこれを用いた旋回流自動洗浄式雨水タンク装置およびその組立方法	学校法人金井学園 日盛興産株式会社	笠井利浩	特許第6667818号
磁気分離装置	国立大学法人大阪大学 国立研究開発法人物質・材料研究機構 株式会社四国総合研究所 学校法人金井学園 荏原工業洗浄株式会社	西嶋茂宏 三島史人	特許公開2019-155243
放射線感応性ゲルインジケータ、及びその調製方法、及びその使用方法、及びその処理方法	学校法人金井学園 株式会社NUCLEAR TECHNOLOGY 公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター	砂川武義 吉橋幸子	特許第6714231号

発 明 名 称	出 願 人	本学発明者	特許番号
初期雨水除去装置とこれを備えた雨水タンク装置、雨水タンク装置の通信ネットワーク、初期雨水除去方法	学校法人金井学園	笠井利浩	特許第6860898号
電磁波検出器及び電磁波検出方法	学校法人金井学園 国立大学法人福井大学	栗島史欣	特許第6361908号
電磁波の位相速度制御方法及び位相速度制御構造	学校法人金井学園 国立大学法人福井大学	栗島史欣	特許第6217963号
電磁波検出方法及び電磁波検出装置	学校法人金井学園 国立大学法人福井大学	栗島史欣	特許第5963080号
都市型洪水緩和システム	学校法人金井学園	笠井利浩 中城智之	特許第5769266号
ゲル状玩具製作キット	学校法人金井学園	砂川武義 江藤浩一 金井 兼	特許第6068015号
導電ケーブルにおける被覆絶縁体の劣化測定装置および劣化測定方法	学校法人金井学園	砂川武義	特許第5495062号

05-3 地域連携研究推進センター(研究部門)

地域連携研究推進センターは、福井工業大学の教授陣が持つ専門知識と最先端設備を生かして、企業や公的機関との技術提携を促進します。

1. 委託研究・試験研究、共同研究の促進

産業界との連携を密にしなが、求められる技術開発に大学全体で取り組むため、地域連携研究推進センター運営委員会で検討。各専門分野の教授陣に研究依頼を行い成果をあげます。

2. 各業界への技術移転の推進

最先端の研究成果を即座に社会・産業界へと還元すべく、産学共同特許(工業所有権)のライセンスなど技術移転を促進。企

業と大学(研究グループ)との知的所有権に関する契約検討、事務・管理も担います。

3. 新産業の創出、新企業のバックアップ

技術および人材のインキュベータとして、事業化・製品化に向けた研究・開発をコーディネート。

"F.U.T発ベンチャー事業"も視野に入れ、新産業創出・新規企業の支援に努めます。

05-4 AI&IoTセンター

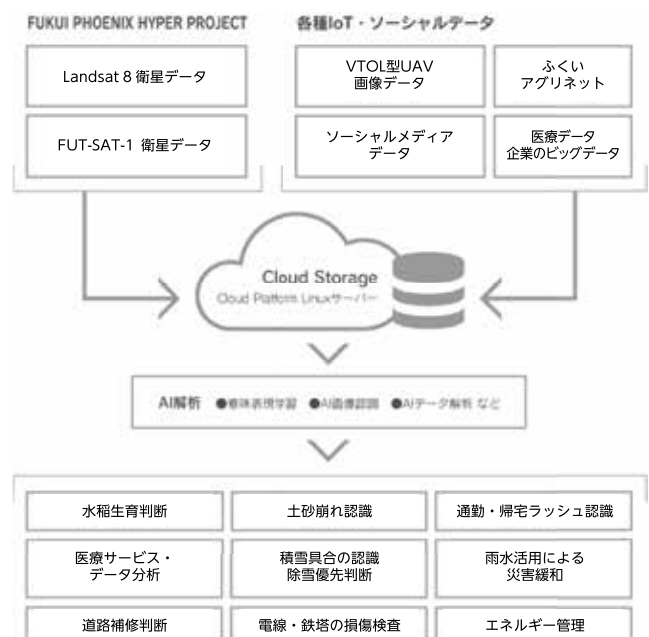


FUT AI&IoT Center

2019年4月、第5期科学技術基本計画(Society5.0)の地域への貢献をミッションとし、AI&IoTを活用した地域のサポート、人材の育成、産官学連携の活性化を目的として設置しました。

衛星データ、ドローンによる空撮画像に加えて、IoTセンサー、ソーシャルメディアからセンシングしたデータ、県や自治体が所有するオープンデータ、企業が所有するビッグデータの掛け合わせとAI解析による新たな価値創出により、地域の活性化と産業創造に関わるAI&IoTの支援・展開を行っています。

場 所	大学6号館6階
-----	---------



05-5 まちづくりデザインセンター



FUT まちづくりデザインセンター FUT Community Design Center

少子高齢化や人口減少など、社会環境の著しい変化を見据え、持続可能なまちづくりや伝統産業をはじめとした地場産業に貢献する拠点、まちの未来構想にこたえることを目的として、2022年4月に設立しました。より良い社会環境を次代に継承し、イノベーションを起こす地域デザインの先駆的な役割を果たすことを目指しています。



05-6 ウェルネス&スポーツサイエンスセンター



FUT Wellness & Sports Science Center

感染予防のための新しい生活様式や超高齢社会といった変わりゆく状況の中、人々の健康増進やスポーツ活動を時代に応じた形で研究・支援することを目的として、2022年4月に設立しました。産官学医金の連携を加速させ、さらなる研究の活性化と社会に実装可能な提案や開発を行うことで、地域の発展に貢献することを目指しています。

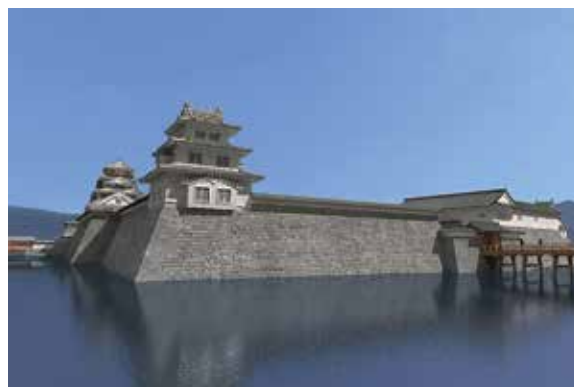


05-7 FUT福井城郭研究所

FUT福井城郭研究所は、日本の近世城郭や城下町とまちづくりを総合的に研究することを目的に、平成25(2013)年本学図書館内に設置されました。

活動・事業内容

1. 文献資料の蒐集：福井城、福井城下町および日本の近世城郭や城下町に関する文献資料、研究図書などの蒐集と整理。
2. 城郭、城下町に関わる調査研究。
3. 研究年報・報告書、論文集などの刊行。
4. 講演会やシンポジウム、展覧会などの開催。
5. 福井のまちづくりに対する提言や実践。



建築監修を行なった福井城復元VRの成果の一部

06 社会貢献

06-1 福井工業大学未来塾

地域の皆さま向けのオープンカレッジです。各界の著名な講師をお迎えする「講演会」と一般市民向けの「FUT公開講座」を開催しています。

講演会来場者数

令和3(2021)年度	令和2(2020)年度	令和元(2019)年度	平成30(2018)年度
327名	—	243名	347名

※令和2(2020)年度は新型コロナウイルスの影響により中止

未来塾(講演会)

令和3(2021)年度 (12月19日開催)	ウルフ アロン(柔道家・東京オリンピック金メダリスト) 「失敗から学んだこと～金メダルへの道～」	令和元(2019)年度 (11月9日開催)	山田 五郎(編集者・評論家) 「住んでる人が幸せになるまちづくりを!～量より質の観光振興～」
令和2(2020)年度	—	平成30(2018)年度 (11月4日開催)	杉山 愛(元プロテニスプレーヤー・スポーツコメンテーター) 「世界一の継続力～グランドスラム62回最多連続出場の裏で～」

※令和2(2020)年度は新型コロナウイルスの影響により中止

FUT公開講座

	令和3(2021)年度	令和2(2020)年度	令和元(2019)年度	平成30(2018)年度
年間講座数	47講座	37講座	15講座	53講座
総参加者数	480名	258名	180名	435名

06-2 学科主催講座、大学連携センター(Fスクエア)開講科目

学科主催講座

		公開講座テーマ	総参加者数
令和3(2021)年度	前期 (7月21日開催)	スポーツ・健康科学による地域貢献を目指して—スポーツ健康科学科の“これまで”と“これから”—	95名
	後期 (11月17日開催)	国際協力とSDGs—福井から海外へ、そして海外から福井へ—	63名
令和2(2020)年度	—	—	—
令和元(2019)年度	前期 (9月28日開催)	福井の公共空間をデザインする—新幹線が来る前にみんなでまちづくりを考えよう—	162名
	後期 (11月23日開催)	地方創生 福井からの挑戦—福井をうごかす 日本をうごかす—	407名
平成30(2018)年度	前期 (7月18日開催)	原子力産業の将来とそれを支える福井での産学官連携～原子力技術応用工学学科創設15周年を目前に～	200名
	後期 (11月14日開催)	地球を取り巻く課題への地方からの挑戦～稲作・ダイズ・水資源・海洋について～	122名

※令和2(2020)年度は新型コロナウイルスの影響により中止

大学連携センター(Fスクエア)での開講科目

	令和3(2021)年度	令和2(2020)年度	令和元(2019)年度	平成30(2018)年度
本学教員の開講科目	5科目	3科目	5科目	5科目

06-3 FUT科学実験キャラバン、出前講義・出前実験 等

さまざまな場所で理科教育普及のお手伝いをしています。

FUT科学実験キャラバン、出前講義・出前実験 実施対象件数及び人数

	令和3(2021)年度		令和2(2020)年度		令和元(2019)年度		平成30(2018)年度	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
FUT科学実験キャラバン	19件	498名	8件	166名	35件	2,026名	25件	2,928名
出前講義・出前実験	10件	860名	7件	269名	18件	1,253名	12件	361名
合計	29件	1,358名	15件	435名	53件	3,279名	37件	3,289名

06-4 ロボキャンプ

レゴ・マインドストームを用いた親子対象のロボット製作教室とWRO (World Robot Olympiad) Japan の福井地区予選会・福井大会を開催しています。

	令和3(2021)年度		令和2(2020)年度		令和元(2019)年度		平成30(2018)年度	
	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数
親子製作教室	17組	34名	19組	38名	87組	174名	25組	52名
ベーシックコース福井大会	—	—	—	—	—	—	—	—
予選会小学生コース	3組	9名	—	—	9組	20名	9組	21名
予選会中学生コース	—	—	—	—	—	—	—	—
予選会高校生コース	8組	20名	—	—	9組	22名	6組	16名
合計	28組	63名	19組	38名	105組	216名	40組	89名

06-5 自治体との連携

協定締結自治体等

自治体等名	締結年月日	協定種別
池田町	令和3(2021)年11月11日	相互連携協定
大野市	平成30(2018)年4月18日	相互協力協定
若狭町	平成29(2017)年9月20日	相互連携協定 ※学校法人金井学園との調印
越前市・武生商工会議所・ 越前市商工会	平成23(2011)年10月25日	相互連携協定
坂井市	平成23(2011)年5月24日	相互協力協定
敦賀市・敦賀商工会議所	平成22(2010)年10月1日	相互連携協定
福井市	平成21(2009)年11月26日	相互協力協定
鯖江市・鯖江商工会議所	平成21(2009)年7月29日	相互連携協定
あわら市	平成17(2005)年7月20日	相互協力協定
勝山市	平成16(2004)年4月14日	相互協力協定

※それぞれの自治体等と協議会、連絡会等を実施し、現在様々な取組を実施しています。

自治体等の連携イベント

令和3(2021)年度	鯖江中学生理科教室 鯖江市企業オンライン研究室見学	FUTプラス!クリスマスコンサート in 池田 六呂師ハンモックイベント
令和2(2020)年度	六呂師ハンモックイベント	
令和元(2019)年度	勝山恐竜クロカンマラソン TOYOTA GAZOO Racing ラリーチャレンジ in 恐竜勝山 さばえものづくり博 鯖江中学生理科教室 鯖江吹奏楽フェスティバル おもしろフェスタ in サンドーム福井	越前モノづくりフェスタ2019 若狭・三方五湖ツーデーマーチ 若祭(若狭町) みさき祭(若狭町西浦地区) 越前おおの産業と食彩フェア 六呂師ハンモックイベント
平成30(2018)年度	勝山恐竜クロカンマラソン TOYOTA GAZOO Racing ラリーチャレンジ in 恐竜勝山 勝山環境フェア 2018 さばえものづくり博 鯖江市企業との交流会	坂井市産業フェア 若狭・三方五湖ツーデーマーチ 若祭への学生ボランティア 越前おおの産業と食彩フェア2018 星空シンポジウム「大野の星空から夢を描こう!」

ふくいSDGsパートナーに登録しました

福井工業大学の教育・研究・社会貢献活動を通じて、SDGsに資する活動を推進するために、福井県版SDGs活動への参画となる「ふくいSDGs/パートナー」への登録を申請し、令和3年5月31日付けで登録されました。

本学の中期計画に基づき、地域の様々な団体の皆様や行政と連携し、持続可能な地域づくりを進めます。
 ○世界が直面する社会・環境問題を解決するリーダーとなる人材を育成します。
 ○国や地域のステークホルダーと連携協力し、持続可能な地域社会を創造するための協創拠点の役割を果たします。
 ○SDGsの達成に貢献する持続可能な大学キャンパスの構築を教職協働で目指します。

また併せて、本学と相互連携協定を締結している鯖江市が設置する「さばえSDGsグローバルクラブ」への登録を申請し、令和3年7月15日付けで登録されました。

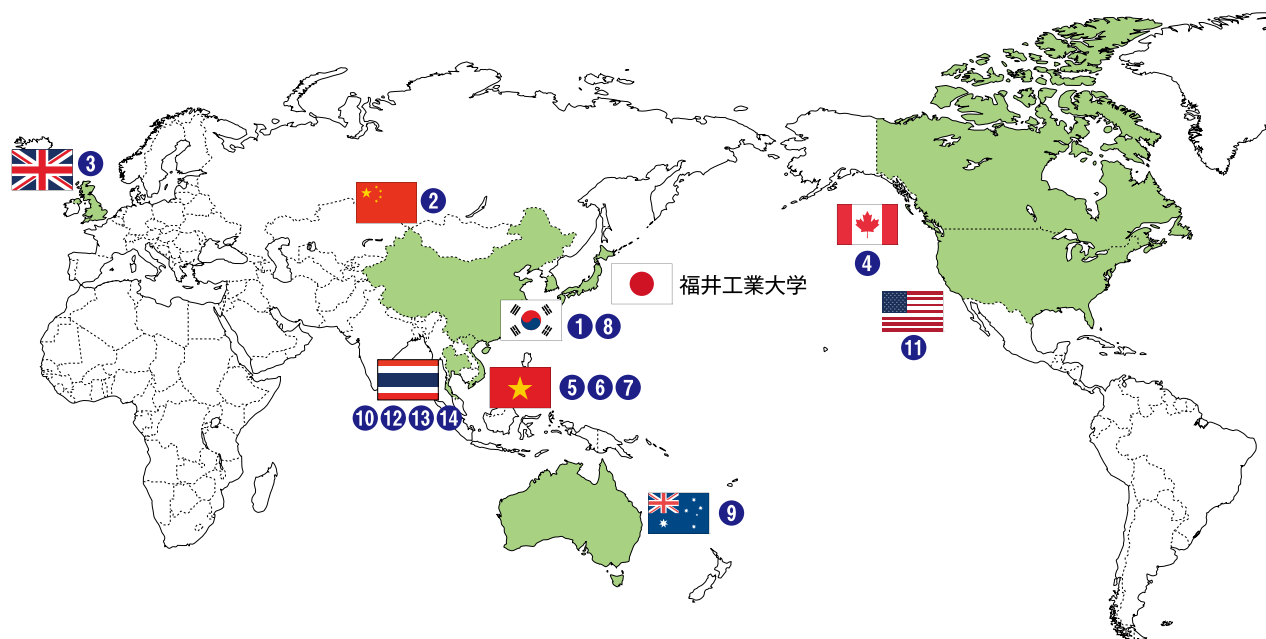


06-6 他機関との連携協定

協定締結大学

大学名	締結年月日
佐野日本大学短期大学	令和4(2022)年4月1日
上越教育大学	令和2(2020)年9月10日
大阪大学レーザー科学研究所	平成31(2019)年2月1日
福井県産学官連携プラットフォーム ※連携する大学等：福井大学、福井県立大学、敦賀市立看護大学、 仁愛大学、福井医療大学、仁愛女子短期大学、 福井工業高等専門学校	平成30(2018)年9月30日
東京都市大学	平成30(2018)年7月17日
大阪大学工学部 及び 大学院工学研究科	平成30(2018)年7月1日

海外協定校を中心に、様々な国際交流を実施しています



大学等間交流協定

機関名	国名	締結年月日	協定種別
① カトリック関東大学校 Catholic Kwandong University	韓国	昭和58(1983)年2月24日	学術交流
② 中南大学 Central South University	中国	昭和60(1985)年6月15日	
③ グリンドゥール大学 Glyndwr University	イギリス	平成21(2009)年6月26日	
④ オンタリオ工科大学 University of Ontario Institute of Technology	カナダ	平成23(2011)年6月29日	
⑤ ダナン大学 The University of Da Nang	ベトナム	平成24(2012)年6月 1日	
⑥ ベトナム教育訓練省 国際教育開発局 Vietnam International Education Development of Ministry of Education and Training	ベトナム	平成26(2014)年2月20日	
⑦ ホーチミン市工業大学 Ho Chi Minh City University of Technology	ベトナム	平成26(2014)年7月28日	
⑧ 明知大学校 Myongji University	韓国	平成28(2016)年5月27日	
⑨ サザンクロス大学 Southern Cross University	オーストラリア	平成28(2016)年8月 5日	
⑩ ワラヤ・アロンコン・ラチャパット大学 Valaya Alongkorn Rajabhat University	タイ	平成29(2017)年3月17日	
⑪ カリフォルニア州立大学 サンマルコス校 California State University San Marcos	アメリカ	平成30(2018)年3月26日	
⑫ ランパーンラチャパット大学 Lampang Rajabhat University	タイ	令和2(2020)年2月24日	
⑬ キングモンクット工科大学ラッカバン校 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	タイ	令和3(2021)年4月30日	
⑭ ラジャマンガラ工科大学ランナー校 Rajamangala University of Technology Lanna	タイ	令和4(2022)年5月12日	

ASEAN事務所

本学は、東南アジア諸国連合地域における国際交流及び留学生受入れの活動拠点として、タイ・バンコクにASEAN 事務所を開設しています。

所在地	5th Floor, Office No. 5/1 333/11 United Tower Sukhumvit 55, Khlongtan-Nuea, Wattana, Bangkok 10110.
設立年月日	平成25(2013)年2月1日

大学間交流

本学が推進している海外協定校との交流事業は、多岐にわたっています。アメリカのカリフォルニア州立大学サンマルコス校とは、スポーツ健康科学科が人間運動学の分野で交流を深めているほか、カナダのオンタリオ工科大学とは、原子力技術応用工学科が文部科学省の事業に基づきオンライン講義を開催しています。また、タイのランパーンラチャット大学及びラジャマンガラ工科大学ランナー校とは、デザイン学科がタイの伝統工芸品に関する共同研究を進め、本学の教員や学生が現地でフィールドワークに取り組んでいます。このほか、令和3(2021)年4月にはタイのキングモンクット工科大学ラッカバン校と、令和4(2022)年5月には同じくラジャマンガラ工科大学ランナー校と本学がそれぞれ連携協定を締結しました。本学では、「国際化ポリシー」に掲げた海外大学との連携協定の拡充と交流促進を一層推し進め、国際社会に貢献する大学を目指していきます。



連携協定書調印式

OCPS (Overseas Challenge Program for Students)

本学は、国際的な視野を身に付け、グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、様々な海外留学プログラムを実施しています。長期休暇を利用して海外の協定校や語学学校で英語力の向上と国際感覚の養成を目指す「海外語学研修」、海外での就業体験や教育実習体験を通して将来のキャリア形成の動機付けを目的とした「海外インターンシップ」など、魅力的で充実したプログラムです。また、平成30(2018)年度からは、自発的かつ挑戦的に海外留学を希望する学生を支援するための新しい留学支援制度「Seize the day」も始動しました。本学では、これらの活動の総称を「OCPS」と名付け、学生のますますの国際化をサポートしていきます。



海外語学研修

国別留学生一覧

令和4(2022)年5月1日現在、世界11の国・地域から107人の留学生を受け入れています。

学部

各年度5月1日現在(単位:人)

年度	中国		タイ		ベトナム		マレーシア		モンゴル		ミャンマー		バングラデシュ		ネパール		韓国		ウズベキスタン		インドネシア		台湾		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和4(2022)	25	6	5	4	23	14	13	2	1	1	1		2				1			4	2	1			76	29
令和3(2021)	27	6	4	3	19	17	9	2	1	1	1		1				1		1	3	2	1			68	31
令和2(2020)	29	6	4	2	20	15	10	2	1	1		1	1			1	1		1	2	1	1			71	28
令和元(2019)	29	8	4	3	29	12	13	1	2	1	1	2	1			1			1	2		1			84	27

大学院工学研究科

博士前期課程

年度	中国		タイ		ベトナム		モンゴル		ミャンマー		インドネシア		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和4(2022)	6				1								6	1
令和3(2021)	4	1											4	1
令和2(2020)	1	1		1		1			1		1	2	4	
令和元(2019)	3		1	1		1			1		1	5	3	

博士後期課程

各年度5月1日現在(単位:人)

年度	中国		タイ		ベトナム		モンゴル		ミャンマー		インドネシア		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和4(2022)	1		1	1									1	2
令和3(2021)	1			1									1	1
令和2(2020)	1												1	
令和元(2019)														1

OCPSを利用して海外渡航をした学生数

(単位:人)

年度	令和3(2021)年度	令和2(2020)年度	令和元(2019)年度	平成30(2018)年度
工学部	—	—	43	41
環境情報学部	—	—	19	17
スポーツ健康科学部	—	—	6	5

※令和2(2020)年度及び令和3(2021)年度は新型コロナウイルスの影響により中止

08 入学金・授業料・その他費用

08-1 入学金・授業料・その他費用

学費・委託徴収金については、次のとおりです。

学部

工学部・環境情報学部

学費	前期(入学手続時)		年額
	前期(入学手続時)	後期	
授業料	465,000円	465,000円	930,000円
設備充実費	120,000円	120,000円	240,000円
実験実習費	40,000円	40,000円	80,000円
厚生衛生費(冷暖房費含む)	15,000円	15,000円	30,000円
合計金額	640,000円	640,000円	1,280,000円

スポーツ健康科学部

学費	前期(入学手続時)		年額
	前期(入学手続時)	後期	
授業料	440,000円	440,000円	880,000円
設備充実費	130,000円	130,000円	260,000円
実験実習費	40,000円	40,000円	80,000円
厚生衛生費(冷暖房費含む)	15,000円	15,000円	30,000円
合計金額	625,000円	625,000円	1,250,000円

※令和2(2020)年度入学生より2年次以降年間80,000円増となります。
※物価等の推移により、次年度以降において学納金を改定する場合があります。

大学院

大学院工学研究科

学費	前期(入学手続時)		年額
	前期(入学手続時)	後期	
授業料	320,000円	320,000円	640,000円
設備充実費	85,000円	85,000円	170,000円
実験実習費	20,000円	20,000円	40,000円
厚生衛生費(冷暖房費含む)	7,500円	13,500円	21,000円
合計金額	432,500円	438,500円	871,000円

※物価等の推移により、次年度以降において学費を改定する場合があります。
※入学金は不要です。

入学金(全学部共通)

250,000円

委託徴収金(全学部共通)

学友会	入会金	500円
	会費	7,000円
後援会会費		7,500円
学生健康保険組合費(4ヶ年間分)		8,000円
学生教育研究災害傷害保険料(4ヶ年間分)		3,300円
学研災付帯賠償責任保険料(4ヶ年間分)		1,360円
学生証カード代		6,000円
バッチ代		400円
授業目的公衆通信補償金		720円
合計金額		34,780円

委託徴収金

博士前期課程	学生健康保険組合費(2ヶ年間分)	4,000円
	学生教育研究災害傷害保険料(2ヶ年間分)	1,750円
	学研災付帯賠償責任保険料(2ヶ年間分)	680円
	学生証カード代	6,000円
	授業目的公衆通信補償金	720円
合計金額		13,150円
博士後期課程	学生健康保険組合費(3ヶ年間分)	6,000円
	学生教育研究災害傷害保険料(3ヶ年間分)	2,600円
	学研災付帯賠償責任保険料(3ヶ年間分)	1,020円
	学生証カード代	6,000円
	授業目的公衆通信補償金	720円
合計金額		16,340円

08-2 主な奨学金制度

福井工業大学奨学金制度

	奨学金区分	内 容
1	特待生奨学金	学納金50%減免 対 象：学部2年次以上または大学院博士前期課程 条 件：前学期末までの成績GPA評価3.80以上 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと）
2	学習奨励金	5万円給付 対 象：学部2年次以上（博士前期課程及び博士後期課程は対象外） 条 件：前学期の成績GPA評価3.80以上かつ前学期の修得単位数15単位以上 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと）
3	育英奨学金	学納金30～70万円減免 対 象：学部2年次以上、大学院全学年及び家計急変者 条 件：保護者年収が400万円以下かつ前学期末までの成績GPA評価2.70以上 または、家計急変事由が発生した場合 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと）、家計急変者については随時
4	一般選抜奨学金	[第1種] 授業料全額免除 [第2種] 学納金半額減免 対 象：一般選抜A方式I期及び大学入学共通テスト利用選抜I期の志願者 採用人数：[第1種]各入試区分につき上位3名 [第2種]第1種採用者を除いた者 条 件：入学試験の合計点が一定の基準を満たしている者のうち、成績上位者 ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り
5	推薦選抜奨学金	授業料の半額減免 対 象：本学が指定する入試区分を受験した志願者（一部入試区分では希望者のみ） 条 件：基礎学力検査の合計点が100点満点中80点以上の得点者 ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り
6	私費外国人留学生奨学金	国立大学標準額と 本学学納金との差額を減免 対 象：私費外国人留学生選抜による入学生または在留資格「留学」を有する 留学生で国費外国人留学生及び外国政府の派遣する留学生以外の者 条 件：本学の規程による ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り
7	私費外国人留学生生活奨学金	毎月3万円を給付 対 象：在留資格「留学」を有する留学生（国費外国人留学生及び外国政府の 派遣する留学生以外）で、学部1年次後期以降、大学院全学年の者 条 件：前学期までの成績GPA評価3.50以上、他本学の規程による 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと）
8	スポーツ特待生奨学金	大会成績等により学納金 または授業料減免 対 象：スポーツ実績評価型選抜による入学予定者または在学生 条 件：本学の規程による ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り
9	災害特別奨学金	学納金等減免 または災害援助金支給 対 象：入学予定者または学部・大学院全学年 条 件：被害状況による 募集期間：随時（ただし、被災日より1年以内）
10	兄弟学費減免奨学金	学納金50%減免 （委託徴収金及び修学・就学支援 金分を除く） 対 象：学園の設置する各学校に兄弟姉妹で在学する学生生徒のうち1人 条 件：本学園が設置する各学校に兄弟姉妹で2人以上在学していること 募集期間：年1回（4月）
11	外国留学奨励奨学金	学納金の半額を上限に、 渡航費、生活補助費または 留学先学費の一部補助 対 象：学部2年次以上、大学院全学年 条 件：交換留学生として認められた者または認定留学生である者
12	大学院進学奨励奨学金	[第1種] 学納金の半額減免 [第2種] 国立大学標準額と本学 学納金との差額を減免 対 象：本学が指定する入試区分で受験した入学予定者 条 件：本学の規程による ※最大2年または3年間。毎年度末に継続審査有り
13	離島・沖縄県出身者 支援奨学金	国立大学標準額と 本学学納金との差額を減免 対 象：当該地域からの入学予定者 条 件：保護者が当該地域に居住かつその地域において収入を得ていること ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り
14	特別奨励金	奨励金支給 対 象：学部・大学院全学年 条 件：取得した資格、修めた大会成績による 募集期間：随時
15	高大連携協定校 特別奨学金	入学金減免 対 象：高大連携協定校に在籍している生徒で、指定校推薦選抜の入試区分に て出願する者 条 件：高大連携協定校特別奨学金採用基準を満たしている者

08-3 学生保険

学生健康保険組合

本学では、全学生が組合員となって健康の保持増進を図り、在学中に生じた疾病や不慮の負傷による経済的負担を軽減するための医療互助制度を設けています。医療機関にて保険診療に要した医療費総額を100分の30の7割(自己負担金の7割)の給付率で乗じた額を、学生健康保険組合から給付しています。

学生教育研究災害傷害保険

この保険は、学生(被保険者)が日本国内または国外における教育研究活動中(対象範囲は下記参照)に生じた急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被った場合に保険金が支払われます。

学研災付帯賠償責任保険

日本国内外において学生(被保険者)が、保険の対象となる活動中およびその往復において、他人にケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について、保険金が支払われます。

対象範囲	内 容
正課中	講義、実験、実習、演習または実技などの授業中と指導教員の指示に基づき研究活動を行っている間の傷害事故
学校行事中	入学式、オリエンテーション、卒業式など大学が主催する各種学校行事参加中の傷害事故
学校施設内にいる間	大学が教育研究活動のために管理している学校施設内にいる間の傷害事故
学校施設内外での課外活動(クラブ活動)中	大学が認めている課外活動団体の管理下で行っている活動中の傷害事故
通学中・学校施設相互間の移動中	大学の授業等、学校行事または課外活動(クラブ活動)への参加の目的をもって、合理的な経路および方法により、住居と学校施設等との間を往復する間の傷害事故

08-4 寮・下宿

県外及び県内遠方から通学する学生のために、大学より1 km以内の距離に男子学生向けの6つの指定寮と3つの指定下宿、女子学生専用の寮があります。食事は朝・夕2食付きです。

指定寮一覧	
西学園寮	五光寮
貴学寮	志学寮
がくし寮	むつみ寮

女子寮一覧
VARROD'Z SHIMAKAWA

指定下宿一覧	
あつみはうす	平鍋下宿
フレンドリーハウス	



VARROD'Z SHIMAKAWA

09 学生支援・施設紹介

09-1 図書館

図書館は、年間入館者数約5万人の利用があり座席数299席、面積1,857㎡の規模を有し、蔵書数約17万冊・定期刊行物397タイトル・視聴覚資料約3,000点と十分に学術情報資料を確保しています。また、他大学とのネットワークを形成したり、県内の公共図書館と相互協力協定を結び、学生だけでなく社会人や地域の方にも積極的に学習の機会を提供しています。

蔵書数（視聴覚資料・電子書籍除く）

 (単位：冊)

	一般書	専門書	計
和書	72,117	82,861	154,978
洋書	5,246	13,659	18,905
計	77,363	96,520	173,883

雑誌受入数

 (単位：種)

和雑誌	389
洋雑誌	8
計	397

視聴覚資料

 (単位：点)

C D	904
D V D	1,449
電子書籍	741
計	3,094

【ラーニングcommons】

図書館内には、グループ学習、パソコンでの情報収集やレポート作成、プレゼンテーション機器を用いた発表練習など、幅広い学習に利用できるラーニングcommonsを設けています。

場 所	大学2号館3階・4階、 FUTタワー3階 ラーニングcommons
開室時間	平日(月～金曜日)／8:30～22:00 土曜日／8:30～17:30

貸出冊数（雑誌含む）

(単位：冊)

令和3 (2021)年度	令和2 (2020)年度	令和元 (2019)年度	平成30 (2018)年度
8,421	7,528	10,377	11,542

入館者数

(単位：人)

令和3 (2021)年度	令和2 (2020)年度	令和元 (2019)年度	平成30 (2018)年度
54,936	36,909	128,626	127,912

学外利用者数

(単位：人)

令和3 (2021)年度	令和2 (2020)年度	令和元 (2019)年度	平成30 (2018)年度
0	60	81	144

※令和3(2021)年度は新型コロナウイルスの影響により利用を制限



09-2 クラブ活動支援センター

クラブ活動支援センターは、学生が結成するクラブについて、活動と修学を両立できる環境づくりと活動支援を行っています。

1. クラブ学生の活動支援

クラブ学生が、日々のトレーニングや練習、また公式大会に集中できるような就学支援や、学生生活に関する支援に取り組んでいます。特に、公式戦等で授業に参加できない場合の教育的配慮を行う支援を学務課と協働で実施しています。

2. 情報の公開

クラブの大会予定や成績を、教職員・学生、また同窓会や後援会の皆様に対して、公式ホームページやSNS等により、積極的な情報発信を行います。

3. 令和3(2021)年度の主な成績(全国大会上位入賞及び記録)

クラブ名	大会名	種目	結果
男子ホッケー部	第70回男子全日本学生ホッケー選手権大会		ベスト8
	第40回全日本大学ホッケー王座決定戦		出場
女子ホッケー部	関西学生春季リーグ(1部・2部)入れ替え戦		勝利し1部昇格
	第43回女子全日本学生ホッケー選手権大会 2回戦		1部にてベスト8
硬式野球部	第70回全日本大学野球選手権記念大会		準優勝

クラブ名	大会名	種目	結果
ゴルフ部	第41回東海テレビ杯争奪 中部学生ゴルフ選手権競技		1位
			3位
	第58回全国大学ゴルフ対抗戦		8位
	北陸オープンゴルフトーナメント2021		2位 (ベストアマチュア賞)
	第74回日本学生ゴルフ選手権		出場 女子15位
陸上競技部	第60回全日本競歩輪島大会	10km競歩	6位
	第43回北日本学生陸上競技対校選手権	400m	3位
		10000mW	2位
第105回日本陸上競技選手権大会	男子20km競歩	出場	
カヌー部	第75回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 100m	7位
バレーボール部	天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 福井県ラウンド		1位通過 (上部大会中止)
	全日本バレーボール大学男子女子選手権 北信越学連推薦チーム決定トーナメント戦		3位
男子サッカー部	第49回北信越大学サッカー 1部リーグ		10位
	第45回総理大臣杯北信越大会		ベスト 8
剣道部	第69回全日本学生剣道選手権大会・ 第55回全日本女子学生剣道選手権大会	女子 個人	ベスト 16
		男子 弐段以下の部	敢闘賞 (ベスト 8)
	第15回全日本学生剣道オープン大会	男子 参段以上の部	決勝トーナメント進出
		女子 参段以上の部	決勝トーナメント進出
空手道部	第65回全日本大学空手道選手権大会	男子団体組手	出場
	第65回全日本学生空手道選手権大会	男子個人組手	出場
		男子個人型	出場
馬術部	第71回全日本学生賞典障害馬術競技大会	障害個人	出場
		馬場個人	出場
	第93回全日本学生馬術選手権大会		出場
柔道部	第70回全日本学生柔道優勝大会	団体	出場
	第40回全日本学生柔道体重別選手権大会	90kg級	出場
吹奏楽部	第62回全日本吹奏楽コンクール北陸大会		銀賞
	第45回全日本アンサンブルコンテスト北陸大会		銀賞

09-3 情報メディアセンター

情報メディアセンターは、学内コンピュータネットワークを含む情報システム、情報関連実習等の運用管理及び、情報システムを利用した教育、研究の支援を行う組織です。当センターでは、学生がより良い環境で学習できるよう、新たなシステム導入の検討や、ネットワーク整備、ノートパソコンに関する相談等を行っております。また、情報関連実習室は授業終了後に学生に開放いたしますので、様々なアプリケーションを利用してレポートの作成等を行うことができます。

【CAD実習室 (6-304/305)】

コンピュータを用いて、機械、電気や建築、土木分野の図面を制作する授業に利用されます。AutoCAD、AutoDesk Inventor といった CAD ソフトウェアを導入した高性能なパソコンの他、レーザープリンターや視聴覚機器等が整備されています。

【携帯端末実習室 (6-201、207、405)、スタジオ (6-206)】

学生所有のノートパソコンをネットワークに接続し、コンピュータリテラシ、プログラミング等の授業に利用されます。パソコンの操作法、課題等は、実習室前面のスクリーンと卓上の液晶ディスプレイに表示されますので、学生は自身のノートパソコンの画面と見比べながら授業を受ける事ができます。また、3つの実習室を結ぶスタジオが設けられており、複数実習室同時に授業を行う事が可能です。

場 所	大学2号館3階
開室時間	平日(月～金曜日) / 8:30～17:30 土曜日 / 8:30～13:30

【MM実習室(6-307)、スタジオ(6-306)】

この教室は3DCG、Web、グラフィックアニメーション、映像編集などのメディアデザイン教育に使用されます。Adobe Creative CloudやVector Worksなど、様々なメディアデザイン教育に対応するソフトウェアが準備されたiMacが設置されています。



MM 実習室

09-4 キャリアセンター

キャリアセンター所属の専任スタッフを学科ごとに配置し、専用ブースを設けて随時、個別相談を実施。就職支援スケジュールによるきめ細かな指導により、本人の志向や能力に合った企業を親身になって紹介します。

場 所	大学1号館3階
開室時間	平日(月～金曜日) / 8:30～17:30 土曜日 / 8:30～13:30

1. 個別指導

就職担当教員・キャリアカウンセラーが学生一人ひとりの適性を見極めながら、マンツーマンで指導を行っています。就職活動の方法、企業情報の入手方法、履歴書・エントリーシート の書き方、面接対策、マナーなど、進路相談や就職活動を全面的に支援しています。

2. 就職支援スケジュール

1年	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析webテスト実施 自己分析webテスト活用ガイダンス
2年	<ul style="list-style-type: none"> 業界研究セミナー(県内企業見学) 就職ガイダンス「就活直前講座」
3年	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望調査及び個人指導(学科別) 自己分析Webテスト 自己分析Webテストフォローアップガイダンス 学内合同企業研究会(12月・1月開催、500社程度参加) 業界・企業研究セミナー 都市圏就職活動セミナー インターンシップ国内・海外(事前教育・就業体験・事後教育) キャリアリーダーズキャンプ in みささち (早期就活集中セミナー)(3日間) 就職ガイダンス①「就職サイトの登録・就職活動について」 就職ガイダンス②「インターンシップについて&就活手帳配布」 就職ガイダンス③「インターンシップのための対策講座(エントリーシート、自己分析、身だしなみ・マナー等)」 就職ガイダンス④「学園理事長から就活生に向けて」 就職ガイダンス⑤「業界・企業研究講座」 就職ガイダンス⑥「WEB面接&選考対策講座」 就職ガイダンス⑦「合同研究会の参加の仕方」 就職支援対策講座
4年	<ul style="list-style-type: none"> 個別就職指導 個別企業説明会

3. 資格取得支援

各学科で取得できる資格や、内容、試験日程等を詳しく紹介。学内外の講師による資格取得のための特別講座を開講しています。資格・試験の難易度に応じ福井工業大学特別奨励金が支給されます。

大学教授陣による資格取得支援

- ◎電気工事士
- ◎基本情報技術者試験
- ◎CGエンジニア検定(エキスパート・ベーシック)
- ◎公害防止管理者(水質)
- ◎放射線取扱主任者(第1種・第2種)
(エックス線作業主任者への講座を含む)
- ◎非破壊試験技術者(超音波探傷レベル1)
- ◎環境測定分析士(3級)

学外講師による特別講座

- ◎2級建築士
- ◎宅地建物取引士
- ◎2級建築施工管理技士学科試験
- ◎2級土木施工管理技士学科試験
- ◎基本情報技術者
- ◎公務員試験

4. 海外インターンシップ

本学では、平成28(2016)年度よりキャリア教育の一環として、タイ、ベトナムにて海外インターンシップを実施しています。海外での就業体験や生活を通して、国際感覚や海外赴任にも対応できる適応力の養成を目的としています。



企業での就業体験

09-5 インターナショナルセンター

1. 国際交流の推進

海外協定校との教員・学生及び研究面での交流促進、新たな協定の締結等、本学の国際交流の活性化を目指しています。

2. 在学生の留学支援

海外語学研修、海外留学支援プログラム「Seize the day」、海外インターンシップ等、海外留学に関する支援を行います。

3. 留学生の支援

海外からの留学生の受入れ手続きの支援、本学に入学後の留学生の生活支援や個別カウンセリングを行っています。本学には、現在、10の国と地域から116名の留学生が在籍しています。留学生が本学で充実した学生生活を送れる環境づくりを目指しています。

インターナショナルセンター 国際交流課

場 所	FUTタワー4階
開室時間	平日(月～金曜日)／8:30～17:30 土曜日／8:30～13:30



陶芸体験

09-6 テクニカルサポートセンター

テクニカルサポートセンターでは、工業系大学として必要な実験・実習・ものづくりのサポートを実践的に授業の中に取り入れ、常に学生の創作意欲を高める取り組みを行っています。ここでは、学生が金属加工実習で学ぶマシニングセンタやNC付フライス盤、産業ロボットなどの機器が備わっております。また、教材にハイブリッド車を用いるなど基礎から実際に役立つ技術までを学ぶことができます。特に、産業界で実際に使用されている機器を使い少人数制で行われる実習事業では、知識と技術を徹底的に身につけ、全学科で対応できる製造技術や制御技術を習得することができます。また、モノづくりに資金的な援助を行う「SSLプロジェクト」を推進しています。予算管理から製作まで学生が一体となって運営するもので「鳥人間」や「Ene-1GP電気自動車」などのプロジェクト活動を行っています。

◎SSLプロジェクト

SSLプロジェクトは、授業でも部活動でもない、学生たちが自分からやってみたいプロジェクトに対し、大学施設のファクトリーを開放し、工作機械やパソコンを自由に利用し学生たちの思い描く創造に取り組んでもらうシステムです。プロジェクトの内容によっては助成金の補助があります。

※SSLは、Student Space Laboratory の略

【SSLファクトリー】

SSLファクトリーでは、機械工作、模型製作、人力飛行機・自作自動車で大会に挑戦するために、様々な創作活動が行われています。

場 所	SSL1号館(デザイン工房)・ SSL2号館・SSL3号館
開室時間	平日(月～金曜日)／9:00～19:00 土曜日／9:00～13:00



Ene-1GP電気自動車プロジェクト

SSL公認プロジェクト	
1	鳥人間プロジェクト
2	Ene-1 GP 電気自動車プロジェクト
3	模型ファクトリープロジェクト
4	FUT学生フォーミュラプロジェクト

09-7 学習支援室

学習支援室は、学びのコーチ役として本学学生の学力向上をお手伝いし、相談内容に応じた指導を行います。何よりも自分から進んで問題に取り組み、解決し、大学で学ぶことの楽しさの動機付けの一助になればと考えております。



場 所	FUTタワー 5階
開室時間	平日(月～金曜日) / 9:00～17:30
科 目	数学、物理、化学、専門科目 (英語についてはSPEC 推進室にて対応)



09-8 教職支援室

教職支援室は、将来教員を目指す学生のアドバイザーとして、教員免許取得に向けての履修のあり方、教育実習・介護等体験の計画・相談、教員採用試験対策など、合格に向けての相談に応じます。

場 所	FUTタワー 5階
開室時間	平日(月～金曜日) / 9:00～17:30

09-9 SPEC

本学では、平成25(2013)年度から、新たな英語教育プログラム SPEC (Special Program for English Communication) を開始しました。このプログラムの目的は、海外への出張から商談・取引、プレゼンテーションまで、世界の現場でコミュニケーションがとれるエンジニア・ビジネスパーソンを育成することにあります。FUTタワー 4階に常勤外国人教員室があり、本プログラムに関わる事業全般を企画・実施するための拠点としての機能を担っています。SPECでは正規の授業以外に次のような教育支援を行っています。

1. 英会話カフェ

月曜日から金曜日までの5限目と各外国人教員のオフィスアワーに、学生の英会話力向上を支援することを目的に、シナジー館4階の Study Lounge I で「英会話カフェ」を開催しています。

2. 多文化体験イベントの企画・実施

多文化、特に英語圏の文化を体験することを目的に、様々なイベントを年に数回行っています。外国人教員から文化や慣習についての解説を聞いたり、本学に在籍している留学生と交流したりしています。

3. 海外語学研修の企画・実施

夏季と春季の長期休暇中にオーストラリア、アメリカ、イギリス、カナダで語学研修を実施しています。参加者は、現地でホームステイをしながら研修先の大学等で英語を学びます。研修を修了すると、学年に応じて「海外語学研修 I～IV (各4単位)」が英語選択科目の単位として認定されます。

【Study Lounge I】

学生のための国際交流フリースペースです。5限目の時間には、学生がネイティブスピーカーの教員と気軽に話しができる英会話カフェを実施しています。また、季節ごとに国際色豊かなイベントを開催しています。



Study Lounge I

【Study Lounge II】

10人程度収容の多目的施設です。色彩豊かな椅子とテーブルがあり、学生同士のミーティングなどに幅広く活用しています。



Study Lounge II

09-10 学生生活支援室

学生生活支援室では、学生相談を担当しています。学生が有意義な大学生活を送れるように、入学前から卒業までの間、カウンセリングを中心に学生支援を行っています。専門のカウンセラー（臨床心理士、社会福祉士、保健師 等）4名、教員カウンセラー10名（内1名は臨床心理士）で対応しています。また、障害学生支援（修学支援）の窓口も担っています。

場 所	シナジー館3階
開室時間	平日（月～金曜日）／9:00～17:00



学生生活支援室フリースペース



学生生活支援室パンフレット

10 決算の概要

資金収支計算書

令和3(2021)年4月1日から令和4(2022)年3月31日まで (単位:円)

収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,845,330,110
手数料収入	44,818,981
寄付金収入	184,905,603
補助金収入	1,143,426,261
資産売却収入	1,162,150
付随事業・収益事業収入	50,696,371
受取利息・配当金収入	183,986,865
雑収入	106,168,236
借入金等収入	2,000,000,000
前受金収入	480,409,874
その他の収入	7,233,462,215
資金収入調整勘定	△ 783,618,264
前年度繰越支払資金	1,930,926,937
収入の部合計	16,421,675,339
支出の部	
科目	金額
人件費支出	2,677,032,205
教育研究経費支出	1,739,953,889
管理経費支出	655,192,945
借入金等利息支出	2,635,170
借入金等返済支出	95,200,000
施設関係支出	1,023,205,606
設備関係支出	640,379,710
資産運用支出	5,253,182,651
その他の支出	2,111,622,688
資金支出調整勘定	△ 793,517,146
翌年度繰越支払資金	3,016,787,621
支出の部合計	16,421,675,339

貸借対照表

令和4(2022)年3月31日 (単位:円)

資産の部	
科目	金額
固定資産	31,951,515,036
有形固定資産	20,131,669,852
特定資産	10,158,053,754
その他の固定資産	1,661,791,430
流動資産	3,332,027,566
資産の部合計	35,283,542,602
負債・純資産の部	
科目	金額
固定負債	2,828,242,262
流動負債	1,662,751,755
負債の部合計	4,490,994,017
基本金	43,805,632,236
繰越収支差額	△ 13,013,083,651
純資産の部合計	30,792,548,585
負債及び純資産の部合計	35,283,542,602

事業活動収支計算書

令和3(2021)年4月1日から令和4(2022)年3月31日まで (単位:円)

教育活動収入の部		科目	金額
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,845,330,110
		手数料	44,818,981
		寄付金	185,105,603
		経常費等補助金	1,098,749,261
		付随事業収入	50,561,050
		雑収入	105,573,136
		教育活動収入計	5,330,138,141
		科目	金額
		人件費	2,717,251,265
教育研究経費	2,536,939,133		
管理経費	1,108,200,264		
徴収不能額等	578,332		
教育活動支出計	6,362,968,994		
教育活動収支差額	△ 1,032,830,853		
教育活動外収入の部		科目	金額
教育活動外収入の部	事業活動収入の部	受取利息・配当金	183,986,865
		その他の教育活動外収入	595,100
		教育活動外収入計	184,581,965
		科目	金額
		借入金等利息	2,635,170
その他の教育活動外支出	0		
教育活動外支出計	2,635,170		
教育活動外収支差額	181,946,795		
収支常	経常収支差額	△ 850,884,058	
特別収支		科目	金額
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	371,505,307
		その他の特別収入	370,888,540
		特別収入計	742,393,847
		科目	金額
資産処分差額	14,120,493		
その他の特別支出	1,624,000		
特別支出計	15,744,493		
特別収支差額	726,649,354		
基本金組入前当年度収支差額	△ 124,234,704		
基本金組入額合計	△ 1,935,340,426		
当年度収支差額	△ 2,059,575,130		
前年度繰越収支差額	△ 8,513,947,355		
基本金取崩額	0		
翌年度繰越収支差額	△ 10,453,148,702		
(参考)			
事業活動収入計	6,257,113,953		
事業活動支出計	6,381,348,657		

11-1 キャンパス・学内施設

福井キャンパス

最先端の工学研究に取り組める時代に即した研究機器や実験施設が充実。



〒910-8505
福井県福井市学園3丁目6番1号

- JR北陸本線福井駅下車
- JR福井駅西口バスターミナル3番のりば
学園線乗車、福井工業大学前下車または福井高校前下車(所要時間約10分)

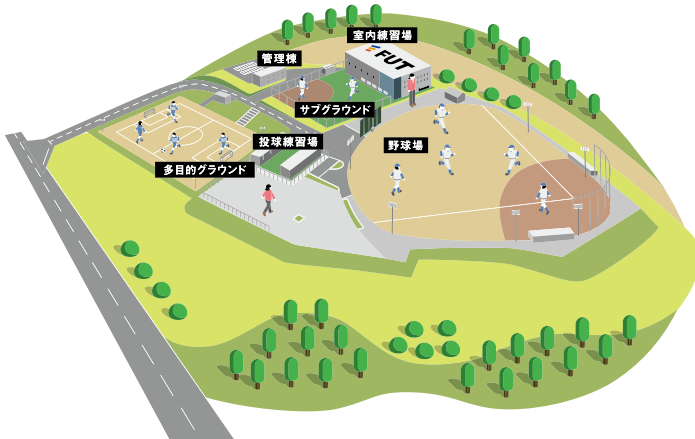
あわらキャンパス

スポーツ健康科学部の実習施設がある。



〒910-4272
福井県あわら市北潟213字21番地

- JR北陸本線芦原温泉駅下車
- JR北陸本線芦原温泉駅より車で約15分



カール・マイヤーグラウンド

東京ドームの約2.5倍の敷地にさまざまなスポーツ設備を完備。

〒910-1124
福井県吉田郡永平寺町松岡上吉野72字平野山1番1

- JR北陸本線福井駅下車
- JR北陸本線福井駅より車で約20分

11-2 所在地及び土地・建物面積

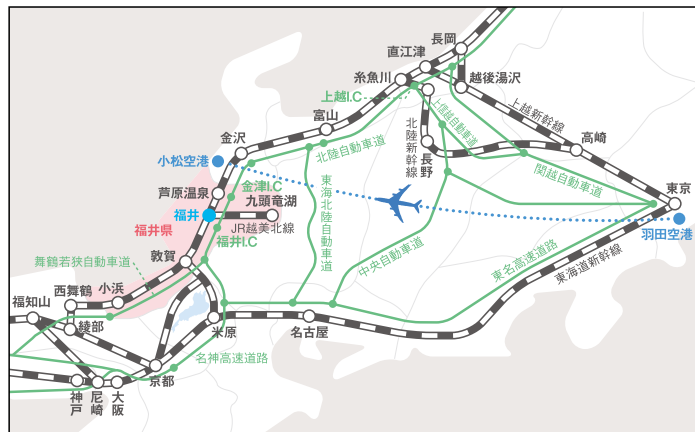
令和4(2022)年5月1日現在

校地	所在地	土地面積	建物面積
福井校地 福井キャンパス	福井県福井市学園3丁目6番1号	37,346 m ²	49,883 m ²
芦原校地 あわらキャンパス	福井県あわら市北潟213字21番地	159,386 m ²	10,511 m ²
福井東部校地 カール・マイヤーグラウンド	福井県吉田郡永平寺町松岡上吉野72字平野山1番1	121,085 m ²	916 m ²
全 体		317,818 m ²	61,310 m ²

11-3 耐震化率

令和4年5月1日の耐震化率は100%

アクセスマップ



JR福井駅までの所要時間

- 東京から 約2時間 羽田空港から飛行機、小松空港からはバスを利用
- 名古屋から 約1時間半 JR新幹線・特急利用
- 京都から 約1時間半 JR特急利用
- 大阪から 約2時間 JR特急利用
- 金沢から 約1時間 JR特急利用
- 富山から 約1時間半 JR新幹線・特急利用
- 長野から 約2時間 JR新幹線・特急利用

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。



福井工業大学
Fukui University of Technology

〒910-8505 福井県福井市学園3丁目6番1号
TEL.0776-29-2620(大学代表) FAX.0776-29-7891
E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

